

構造特記仕様書

§1 一般事項

選択項目は、●印を適用し、●が無い場合は、*印を適用する。
●印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書

2) 設計図

3) 標準図

●鉄筋コンクリート構造配筋標準図●鉄骨工作標準図

○鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図○高強度せん断補強筋施工仕様書

○鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

4) 仕様書(●公共建築協会*日本建築協会)

5) 日本建築学会標準仕様書,JASS5,JASS6

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。

第三者機関による検査・試験費用は工事費に(*含む○含まない)

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は(○意匠図○構造図*設備図)による。

1-7 その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向

構造計算ルート

X

○ルート1○ルート2○ルート3

Y

○ルート1○ルート2○ルート3

2-2 鉄筋の継手及び定着

構造計算ルート別による主筋等の継手重ね長さと柱に取り付く梁の定着長さ

* 建築基準法施行令第73条(政令第73条)による仕様規定

○ 日本建築学会 JASS5(2009)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説

○ 日本建築学会 RC規準2010

XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5(2009)鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2010とすることができる。

§3 仮設工事、土工事

3-1 山留め、根切り

3-2 埋戻し土、盛土、残土処分

埋戻し土*根切り土の中の良土○搬入良土

盛土*根切り土の中の良土○搬入良土

残土処分場内均地し*場外搬出処分(*自由○指定場所)

§4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業(単位mm)

場 所

捨てコンクリート厚さ

※(1)
A: 砕石
B: 割栗石

厚 さ

基 礎

独立、布

*50○90○100

*A○B

*60●100○150

ベ タ

*50○90○100

*A○B

*60○100○150

地 中 梁

*50○90○100

*A○B

*60●100○150

構造スラブ

*50○90○100

*A○B

*60○100○150

注(1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。

(2) 端部aは100以上とする。

a

4-2 設計地耐力

長期kN/m²短期kN/m²終局kN/m²

地耐力載荷試験○行う(箇所、長期設計耐力の3倍を確認する)*行わない

4-3 地盤改良

○無筋コンクリート地業○締固め工法○ソイルセメント杭

○セメント系固化工材攪拌○圧密排水工法

[○載荷試験○一軸圧縮試験]○行う(箇所)*行わない

[○六価クロム溶出試験]○行う*行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭※詳細は構造図による

1) 杭種●拡翼付鋼管杭

○PHC杭○A種○B種○C種○

○ST杭○A種○B種○C種○

○SC杭tmm○○

○CPRC杭○I種○II種○III種○IV種

○節杭○A種○B種○C種○

2) 工法●拡翼付鋼管杭回転工法

○打撃工法○油圧ハンマー○ディーゼルハンマー

○埋込み工法○プレボーリングセメントミルク注入工法

○プレボーリング拡大根固め工法(認定工法/HIFB工法)

杭周固定法*あり○なし

○中掘拡大根固め工法(認定工法)

○回転埋設根固め工法(認定工法)

3) 杭径、設計耐力、本数表

杭 径(拡底部)mm

長期kN

短期kN

終局kN

本数

備 考

KPI:φ165.2 t7.1

120.00

240.00

360.00

8

L=3,000

杭 径()

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強

○かご筋○スタッド溶接●杭外周溶接

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法

○アースドリル工法○拡底アースドリル工法

○リバース工法○オールケーシング工法(○ベント工法○)

○BH工法○

2) 杭径、設計耐力、本数表(拡底部は施工径を示す)

杭 径(拡底部)mm

管厚mm

長期kN

短期kN

終局kN

本数

備 考

()

()

()

()

()

()

3) 杭先端深さGLー m

4) 孔壁測定(2方向)

*行う(○全数○%)●行わない

5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。

コンクリートFc(○普通ポルトランドセメント○高炉セメントB種)

鉄筋○D以下SD295A○D以上SD345

○D以上SD390

鋼管(リブ付)○SKK400○SKK490

4-6 杭打地業共通事項

1) [○杭長決定用先行杭●試験杭]●行う(1本)*行わない

2) 載荷試験○行う(箇所、長期設計耐力の3倍を確認する)*行わない

3) SL塗布○行う*行わない

§5 鉄筋工事

5-1 材種

種 類

径

継 手

●SD295A

D16以下

*重ね継手○スパイラル○工場溶接

●SD345

D19以上

○重ね継手*溶接継手○機械継手(級)

○SD390

D以上

*溶接継手○機械継手(級)

○SD490

D以上

*溶接継手○機械継手(級)

○溶接金網

○重ね継手

○高強度せん断補強筋

○1275級P

○785級K

○685級UDUR

○重ね継手○スパイラル○工場溶接

溶接継手*ガス圧接○突き合せ溶接(D16以下は重ねアーク溶接でも可)

5-2 溶接部の検査(第三者機関による)

●抜取り検査

○引張り試験(JISZ3120)

1検査ロットにつき*3本○

●超音波探傷試験(JISZ3062)○熱間押抜き試験

1検査ロットにつき●30箇所○

不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。

1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数量で200箇所以内

5-3 梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-4 その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として●①一般○②地反力を受けるとする。

鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。

コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。

コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1 設計基準強度(N/mm²)

1) セメント●普通ポルトランドセメントJISR5210○高炉セメントB種○低熱ポルトランドセメントJISR5210○

2) 粗骨材○砂利*碎石○高炉スラグ骨材○人工程量骨材○再生骨材

最大径(mm)*20○25○40

3) 躯体(使用区分は設計図の軸組図に示す)

●普通コンクリート(基礎・梁:Fc21)

○Fc18●Fc21○Fc24○Fc27○Fc30○Fc○

○軽量コンクリート(*1種○2種気乾単位容積質量*18.5○)

○LFc18○LFc21○LFc24○LFc27○LFc30○LFc○

4) 土間コンクリート●Fc18(ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)

5) 捨てコンクリート●Fc18

6) 防水押さえコンクリート○Fc○LFc(気乾単位容積質量*18.5○)

7) かさ上げコンクリート○Fc○LFc(気乾単位容積質量*18.5○)

6-2 混和材*AE減水剤○高性能AE減水剤○躯体防水材○膨張材

6-3

箇 所

基礎・地中梁

一 般

備 考

スランブcm

18

18

水セメント比 %

65以下

単位水量kg/m³

185以下

単位セメント量kg/m³

270以上

6-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)

1) 骨材[●塩分含有量○アルカリシリカ反応性]*行う○行わない

2) フレッシュコンクリート[●スランブ●空気量]*行う○行わない

3) 躯体のせき取り外し時期決定圧縮試験*行う○行わない

4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験○行う*行わない

5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析)○行う*行わない

6) 単位水量測定*行う●行わない

6-5 調査(補正値は工事費に含む)

計画供用期間の級()は耐久設計基準強度Fd

○短期(18)*標準(24)○長期(30)○超長期(36)

調査管理強度Fm=Max(Fc,Fd)+S S=3~6

材齢28日の調査強度Fdは下記の式式を満足するものとする。

F≥Fm+1.73σ F≥0.85Fm+3σ

6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

コンクリート

基礎、梁側、柱、壁

スラブ下

梁 下

15℃以上

3日

17日

5℃以上

5日

25日

28日

0℃以上

8日

28日

圧縮試験による場合

5N/mm²

0.85Fcまたは12N/mm²

設計強度

6-7 住宅性能表示

劣化等級○等級2○等級3

劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる場合があるので注意すること。

6-8 Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書(JASS5等)による。

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規 格 名 称

鋼 材 名

柱

通し内ダイア

大梁

小梁

間柱、母屋

一般構造用圧延鋼材

●SS400○

○

○

○

溶接構造用圧延鋼材

○SM400A○SM490A

建築構造用圧延鋼材

○SN400A

○SN400B

○SN490B

○SN400C

○SN490C

一般構造用角形鋼管

●STKR400○STKR490

○

冷間成形角形鋼管

○BCR295○

○BCP235

○BCP325

熱間成形角形鋼管

○SHC400B○SHC400C

○SHC490B○SHC490C

一般構造用炭素鋼管

○STK400○STK490

一般構造用軽量形鋼

●SSC400○

○

7-2 高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類

使用 箇 所

トルシア形高力ボルト

●S10T

全般

JIS形高力ボルト

○F10T

トルシア形が使用できない部分

溶融亜鉛メッキ高力ボルト

○F8T

母材が亜鉛メッキされている部分

7-3 普通ボルト、アンカーボルト

1) 材質○SS400○SS490(M以上)

●ABR400○ABR490○ABM400○ABM490(ABMはM24以上)

2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による)○使用する●使用しない

7-4 頭付きスタッド

径

長 さ(mm)

使用 箇 所

16φ

○80○100○120○150○

19φ

○80○100○120○150○

22φ

○100○120○150○

○

7-5 溶接材料

1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。

2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スクラップ形状*スクラップ工法○ノンスクラップ工法

7-7 継手

柱

梁

フランジ

○高力ボルト

○現場溶接

*高力ボルト

○現場溶接

ウェブ

○高力ボルト

○現場溶接

*高力ボルト

○現場溶接

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1 コンクリートブロック

1) 種類○A種○B種○C種

2) 厚さmm○100○120○150○190

8-2 ALCパネル

1) 使用箇所○床○屋根●外壁○内壁

2) 厚さmm●50○100○120○150○175

3) 外壁取り付け構法

方 向

構 法

使用 箇 所

備 考

縦

○スライド構法

●ロッキング構法

外壁

横

○カバープレート構法

○ボルト止め構法

8-3 押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さmm●60○

方 向

構 法

使用 箇 所

備 考

縦

●ロッキング構法

外壁1時間耐火部分

横

○スライド構法

8-4 PCa板

1) 床及び屋根○PCa板単独厚さmm○

○合成板

PCa板厚さmm

現場打厚さmm

合計厚さmm

備 考

2) 外壁厚さmm○

・建築基準法施行令第129条2の4(建築設備の構造強度)の規定に適合することを確認した。
一級建築士第195735号/構造設計一級建築士第5700号 岡本 成敏

内田構造建築工房

一級建築士 内田 浩司

大臣登録番号 一級 No215989

三重県知事登録 第1-1522号

〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085

年月日

縮 尺

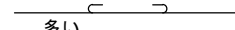
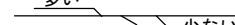
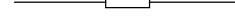
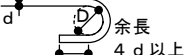
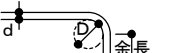
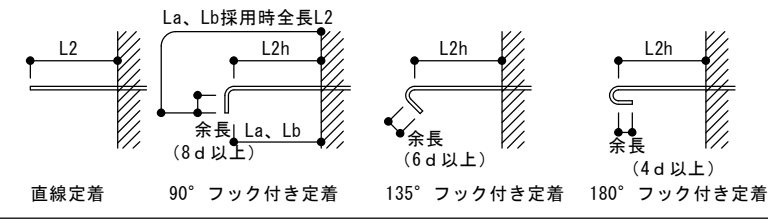
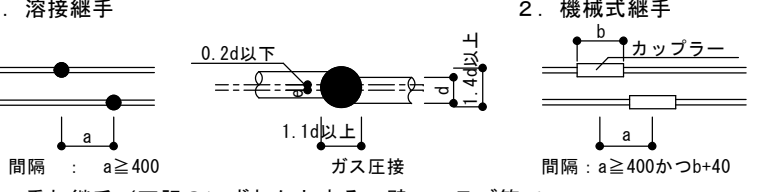
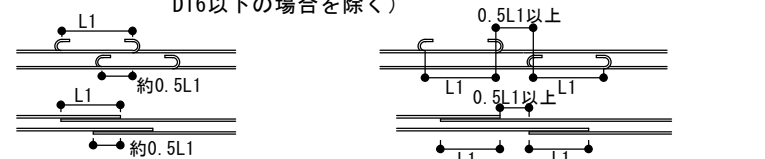
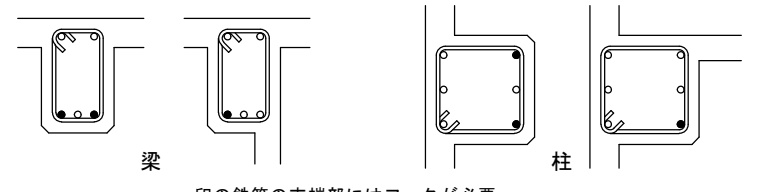
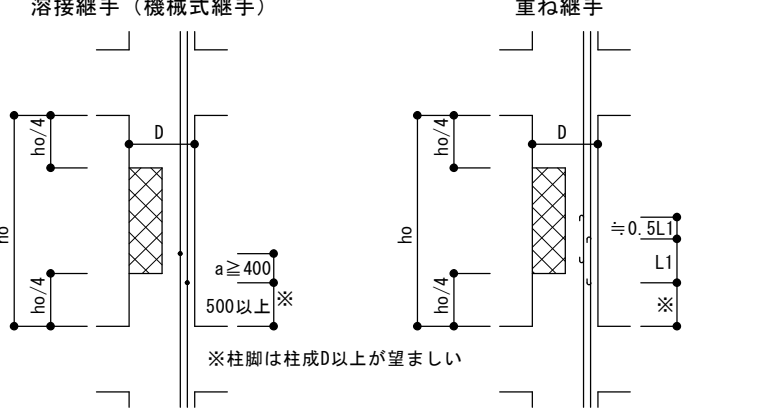
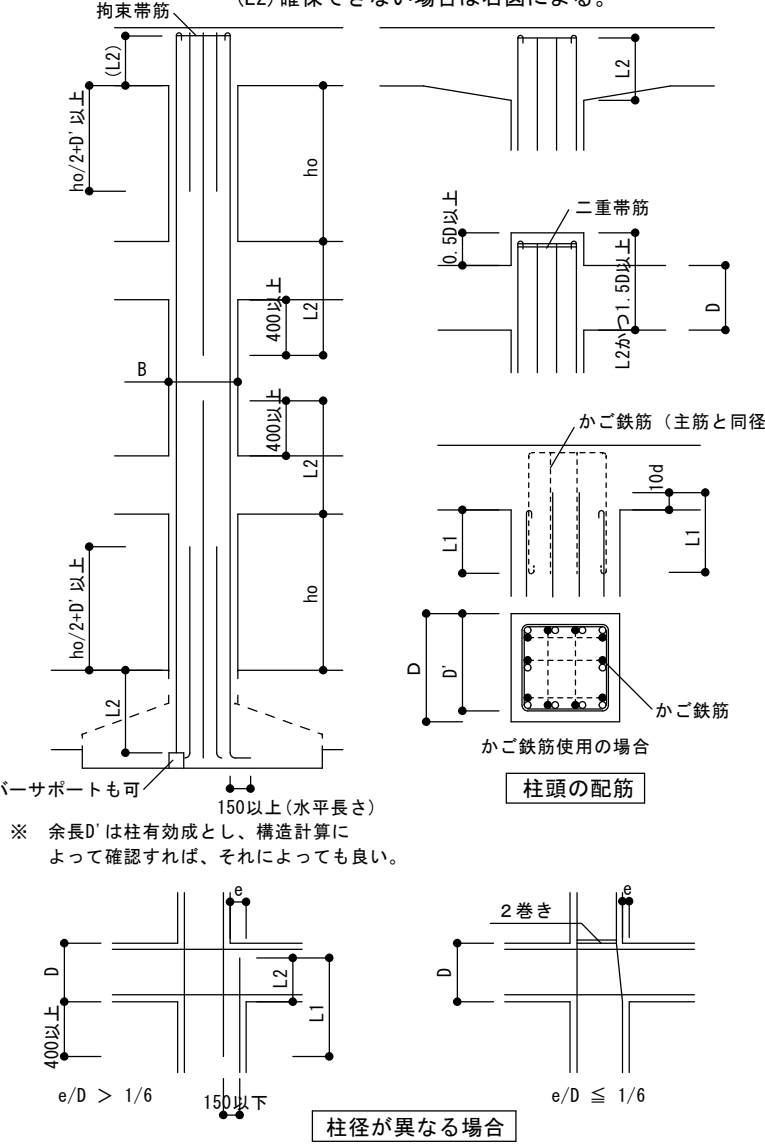
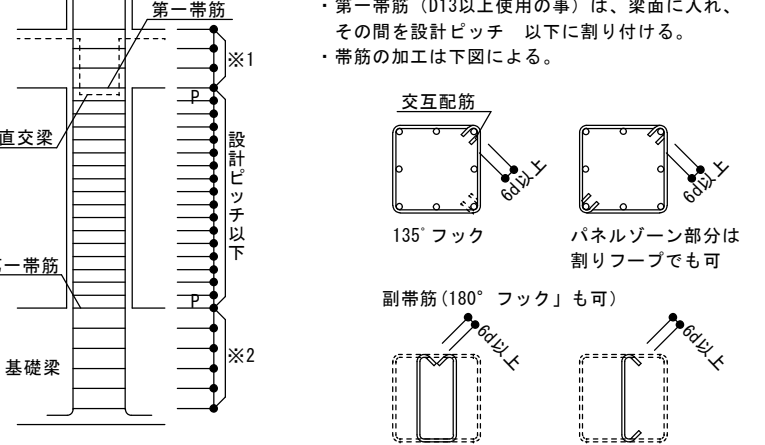
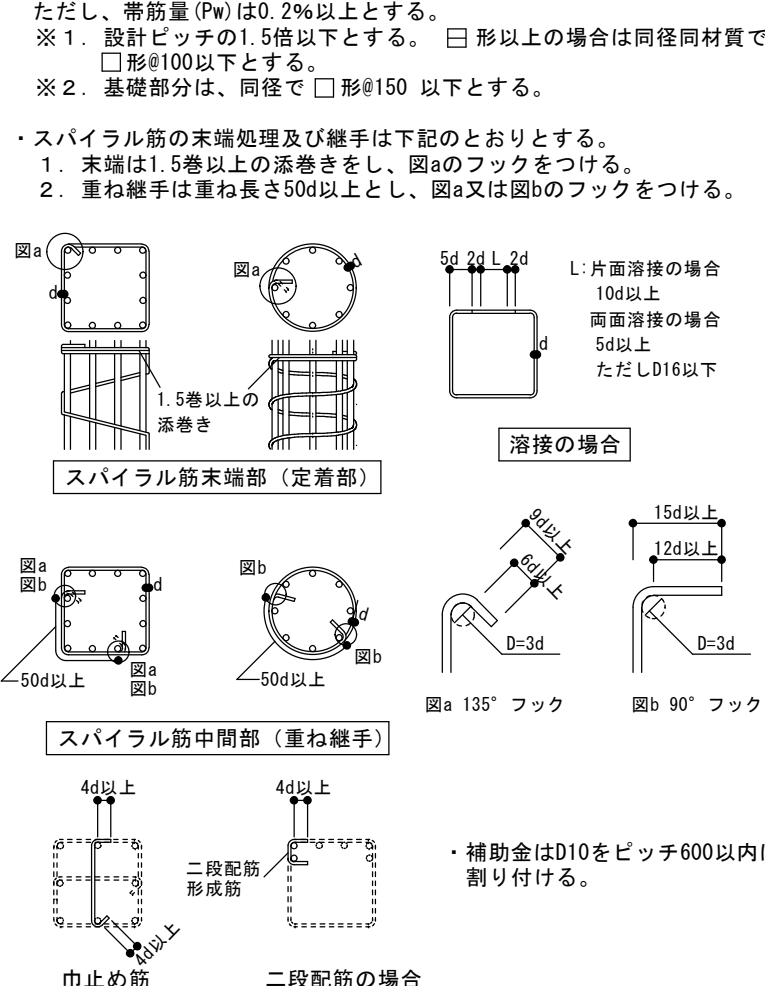
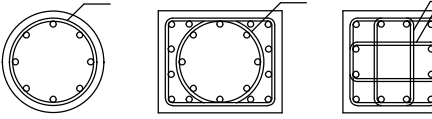
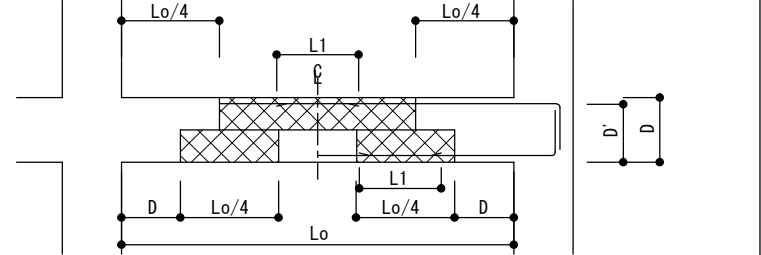
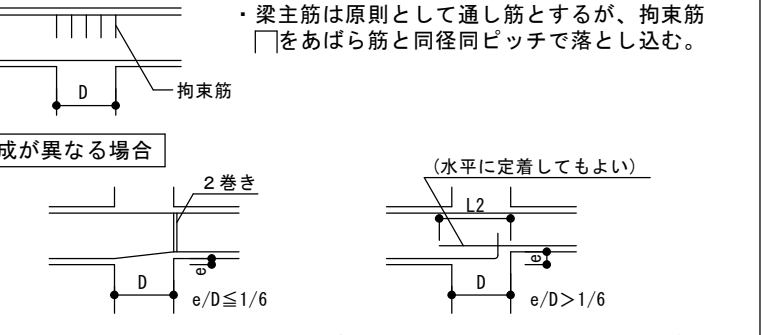
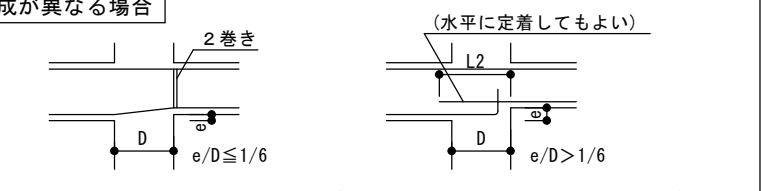
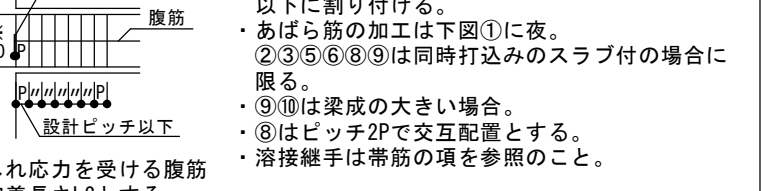
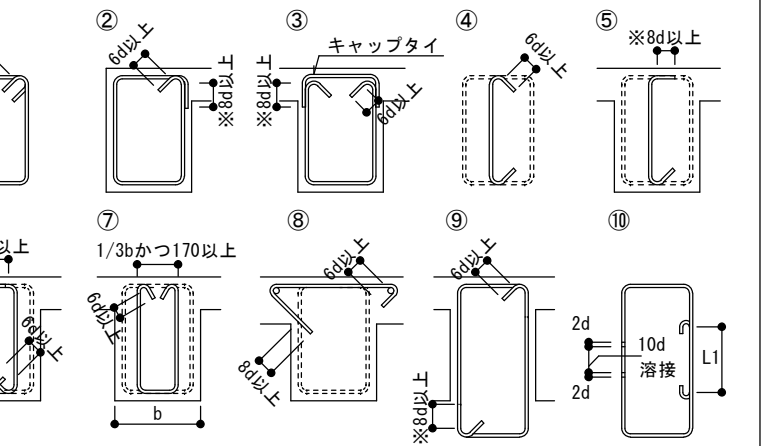
NS

工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園及び津市立高岡幼稚園改修その他工事

図面番号

S-001

(原図A2)

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）																																																	
§ １ 一般事項																																																	
1-1 基 本 事 項	1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。 2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。 また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5 (2009)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。 3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。 4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。																																																
1-2 そ の 他																																																	
§ ２ 共通事項																																																	
鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。																																																	
2-1 鉄 筋 の 表 示 記 号	記 号	●	×	○	●	○	⊗	⊗	○	●	⊗																																						
	呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41																																					
	最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46																																					
	・フックのない場合																																																
	・フックのある場合																																																
	・本数に差がある場合																																																
	・機械式継手表示																																																
	・溶接継手表示 (ガス圧接、突合せ溶接)																																																
2-2 鉄 筋 の 折 り 曲 げ	柱・梁・基礎の主筋及びその他の鉄筋の折曲げ形状・寸法																																																
	折曲げ 角度	図	鉄筋の使用 箇所による 呼称	鉄筋の 種類	鉄筋の 径による 区分	鉄筋の折曲げ 内法直径 (D)																																											
	180°		余長 4 d 以上	柱・梁主筋	SD295	D16以下	3d以上																																										
	135°		余長 6 d 以上	基礎主筋	SD345	D19～ D41	4d以上																																										
	90°		余長 8 d 以上	帯 筋	SD390	D41以下	5d以上																																										
				あばら筋	SD390	D41以下	5d以上																																										
				スラブ筋																																													
				壁 筋	SD490	D25以下	5d以上																																										
					SD490	D219～ D41	6d以上																																										
2-3 鉄筋の定着 及び重ね継手の長さ	「JASS5 (2009)」																																																
	鉄筋の 種類	コンクリート の設計基準 強度 (N/mm ²)	重ね継手の 長さ	定着の長さ																																													
			上段 直線 L1 下段 フック付 L1h	上段 直線 L2 下段 フック付 L2h, La	上端筋	下端筋	上端筋	下端筋	上端筋	下端筋																																							
			フック付 L1h	フック付 L2h, La	フック付 Lb	L3, L3h																																											
	SD295 (SD345) ○はSD345 を示す	18	45d (50d) 35d	40d 30d	20d 15 (20) d	15d	(20d)	L3=20d L3h=10d	床スラブの場合 L3=10d かつ 150以上	SD490は 適用外	20d (-)																																						
		21	40d (45d) 30d	35d 25d	30d (35d) 20d (25d)	15 (20) d																																											
		24～27	35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d)	15 (20) d																																												
		30～36	35d 25d	30d 25d	15d																																												
		39～45	30d (35d) 20d (25d)	25d (30d) 15d (20d)	15d																																												
	SD390 (SD490) (-)は適用外	48～60	30d 20d	25d 15d	15d																																												
		21	50d (-) 35d (-)	40d (-) 30d (-)	20d (-)																																												
		24～27	45d (55d) 35d (45d)	40d (45d) 30d (35d)	20 (25) d																																												
		30～36	40d (50d) 30d (35d)	35d (40d) 25d (30d)	20 (25) d																																												
		39～45	40d (45d) 30d (35d)	35d (40d) 25d (30d)	20 (25) d																																												
		48～60	35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d)	15 (20) d																																												
		一般定着の直線L2またはフック付のL2h、La、Lbの図																																															
																																																	
	1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、またフック付のL2hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。 2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。																																																
2-4 継 手 一 般	3. 構造特記仕様書2-2で政令第73条とした場合、主筋等の重ね長さと柱に取り付く梁の定着長さは上表L1・L2かつ40d（軽量コンクリートを使用する場合は50d）とする。 4. 構造特記仕様書2-2でJASS5 (2009)、RC規準2010とした場合、主筋等の継手長さと柱に取り付く梁の定着長さは設計者の指示による。 参考値として上表JASS5 (2009)にL1・L2を示す。																																																
	1. 溶接継手 2. 機械式継手																																																
																																																	
	3. 重ね継手（下記のいずれかとする。壁、スラブ筋でD16以下の場合を除く）																																																
																																																	
	4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。 (溶接、機械式継手等による)																																																
	5. 溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突合せ溶接の場合は1サイズまでとする。																																																
	6. 突合せ溶接継手及び機械継手の場合はメーカー仕様による。																																																
2-5 鉄筋のフック	下記の1.～7.に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。 1. あばら筋及び帯筋 2. 煙突の鉄筋 3. 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）																																																
																																																	
	・印の鉄筋の末端部にはフックが必要																																																
2-6 鉄筋のあき	4. 単純梁の下端筋、片持ちスラブの上端筋の先端 5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋 6. 杭基礎の基礎筋（偏心基礎及び杭2本打以上の場合） 7. 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋																																																
	・鉄筋のあきaは、原則として下記による。 呼び名の数値dの1.5倍以上 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上 } かつ25以上																																																
	※ Dは最外径を示す																																																
2-7 かぶり厚さ	鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ																																																
	<table><tr><th colspan="3">部 位</th><th colspan="2">かぶり厚さ (mm)</th></tr><tr><th colspan="3"></th><th>仕上げあり</th><th>仕上げなし</th></tr><tr><td rowspan="5">土に接しない</td><td rowspan="2">屋根スラブ</td><td>屋 内</td><td>30 (20)</td><td>30 (20)</td></tr><tr><td>屋 外</td><td>30 (20)</td><td>40 (30)</td></tr><tr><td rowspan="2">床スラブ</td><td>屋 内</td><td>40 (30)</td><td>40 (30)</td></tr><tr><td>屋 外</td><td>40 (30)</td><td>50 (40)</td></tr><tr><td>柱</td><td>擁 壁</td><td>50 (40)*1</td><td>50 (40)*1</td></tr><tr><td rowspan="2">土に接する</td><td colspan="2">柱・梁・床スラブ・耐力壁</td><td>50 (40)*2</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">部 分 基 礎 ・ 擁 壁</td><td>70 (60)*2</td><td></td></tr></table>											部 位			かぶり厚さ (mm)					仕上げあり	仕上げなし	土に接しない	屋根スラブ	屋 内	30 (20)	30 (20)	屋 外	30 (20)	40 (30)	床スラブ	屋 内	40 (30)	40 (30)	屋 外	40 (30)	50 (40)	柱	擁 壁	50 (40)*1	50 (40)*1	土に接する	柱・梁・床スラブ・耐力壁		50 (40)*2		部 分 基 礎 ・ 擁 壁		70 (60)*2	
部 位			かぶり厚さ (mm)																																														
			仕上げあり	仕上げなし																																													
土に接しない	屋根スラブ	屋 内	30 (20)	30 (20)																																													
		屋 外	30 (20)	40 (30)																																													
	床スラブ	屋 内	40 (30)	40 (30)																																													
		屋 外	40 (30)	50 (40)																																													
	柱	擁 壁	50 (40)*1	50 (40)*1																																													
土に接する	柱・梁・床スラブ・耐力壁		50 (40)*2																																														
	部 分 基 礎 ・ 擁 壁		70 (60)*2																																														
2-8 鉄筋の定着	1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。 2. 「仕上げあり」とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上のある場合とする。 3. ※1 品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で 10 減の値とすることができる。 4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに 10mm 加算する。 5. 柱、梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。																																																
2-9 鉄筋の継手	§ 3 柱																																																
3-1 鉄筋の継手	溶接継手（機械式継手） 重ね継手																																																
																																																	
	※柱脚は柱成D以上が望ましい																																																
	・印の鉄筋の末端部にはフックが必要																																																
3-2 主筋の定着																																																	
3-3 帯 副 帯 筋																																																	
3-4 補 助 筋																																																	
3-5 柱のコンファインド補強	補強する柱は設計図による。（柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。）																																																
																																																	
	a スパイラル帯筋φ60～75（有効間隔50程度） b 溶接閉鎖型帯筋φ60～75（有効間隔50程度）																																																
4-1 主筋の継手	§ 4 梁																																																
4-2 主筋の定着 及び余長																																																	
	・印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は、柱面より500以上はなすこと。 ・定着形状を下記以外とする場合は設計図による。																																																
外 柱	3/4d以上かつLa Lo/4 D'以上 つり筋2-D13(束ね筋)以上とする。 二段筋 最上階 一般階 ※余長D'は梁有効成とし、構造計算によって確認すれば、それによっても良い。 ・梁主筋は原則として通し筋とするが、拘束筋「」をあばら筋と同径同ピッチで落とし込む。																																																
中 柱																																																	
4-3 あばら筋 副あばら筋	梁成が異なる場合 																																																
	4-3 あばら筋副あばら筋 																																																
	・第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。 ・あばら筋の加工は下図①に夜。 ②③⑤⑥⑧⑨は同時打込みのスラブ付の場合に限る。 ・⑨⑩は梁成の大きい場合。 ・⑧はピッチ2Pで交互配置とする。 ・溶接継手は帯筋の項を参照のこと。 ※ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL2とする。																																																
																																																	
	⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。 ※柱面より梁成の範囲は、180°フック又は135°フックが望ましい。																																																

内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司
大臣登録番号 一級 No.215989

三重県知事登録 第1 - 1 5 2 2 号
〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085

年月日

縮 尺
NS

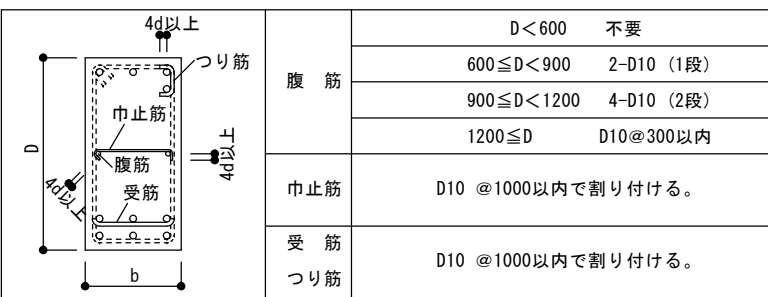
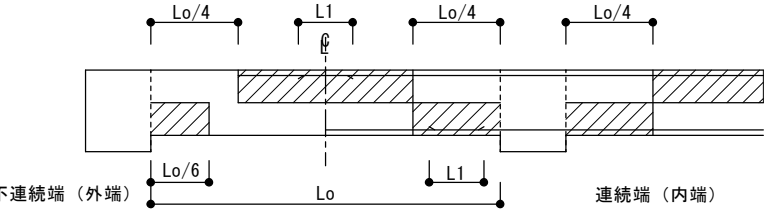
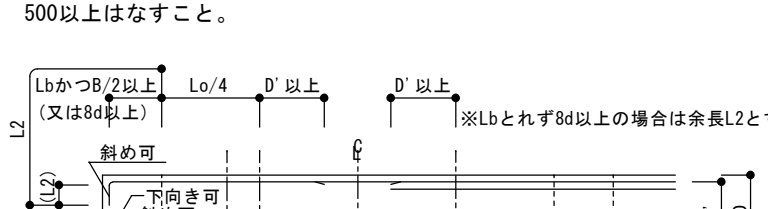
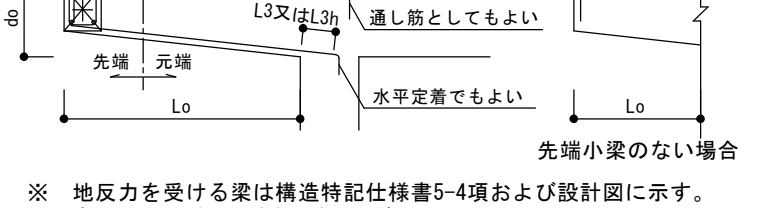
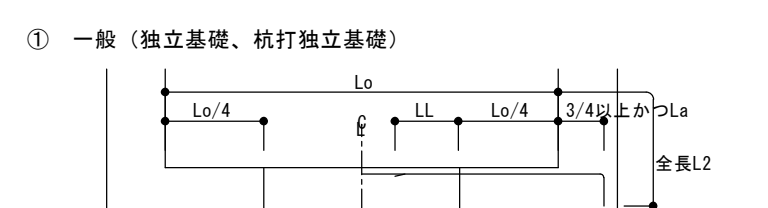
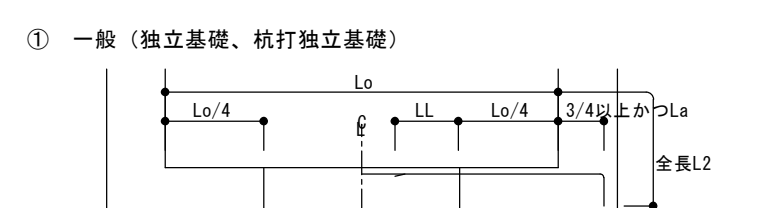
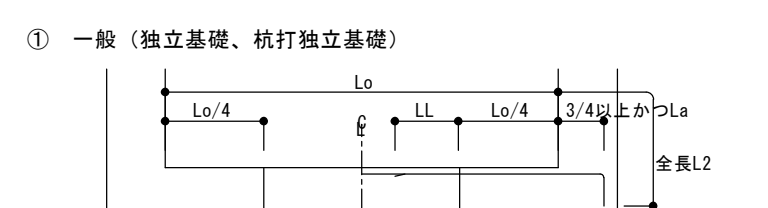
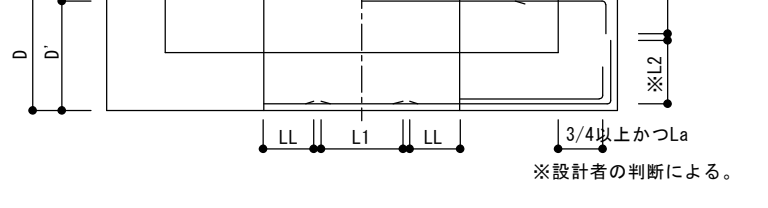
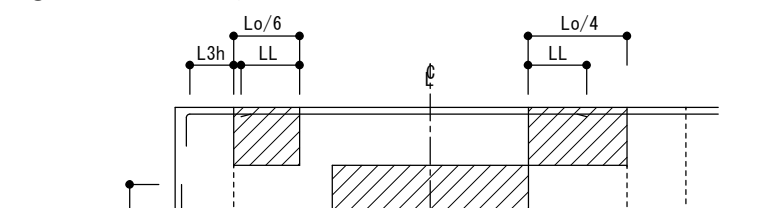
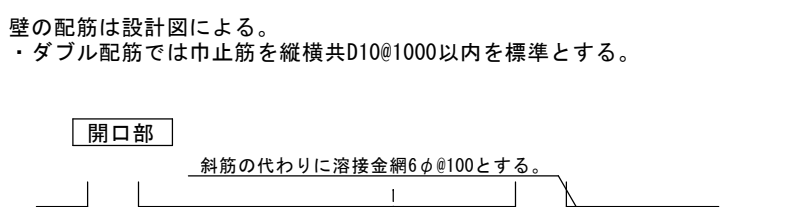
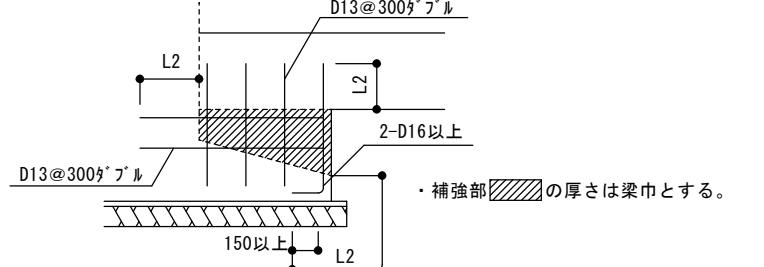
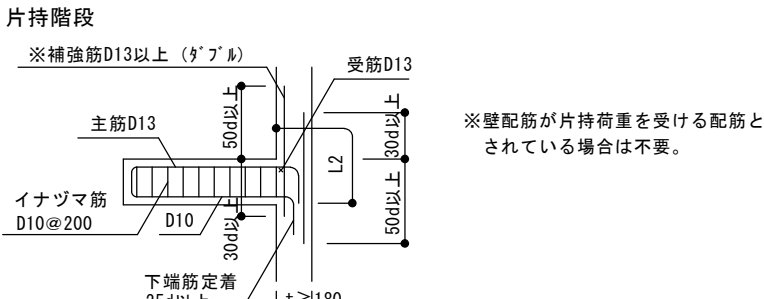
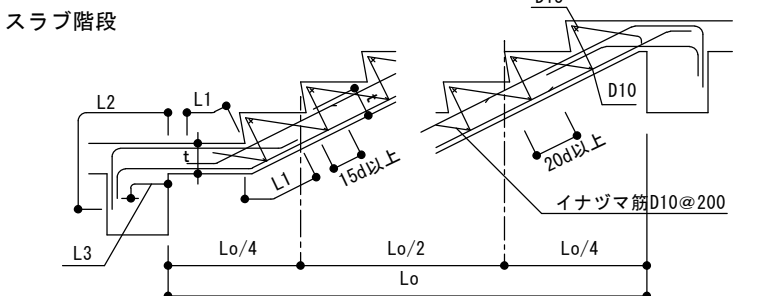
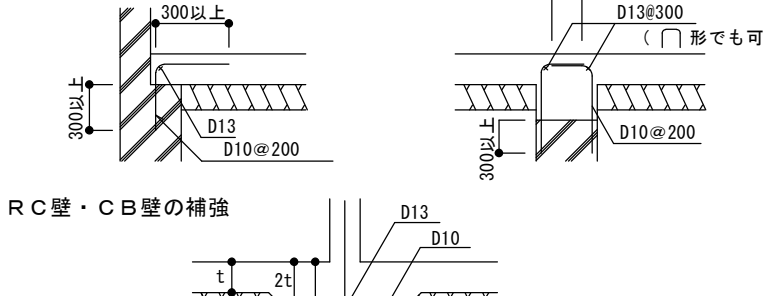
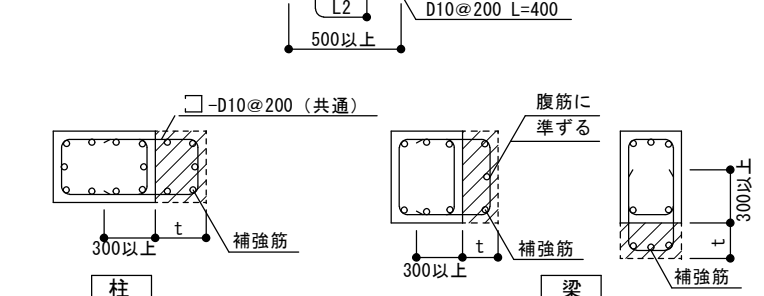
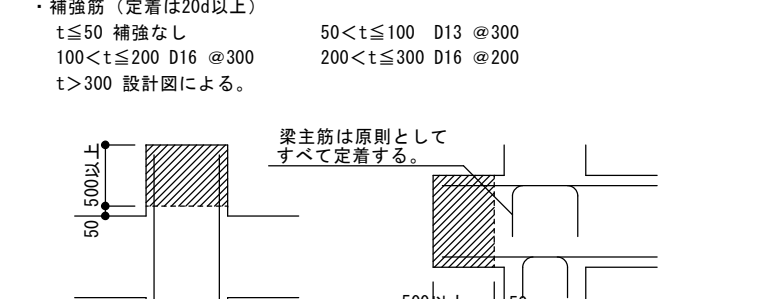
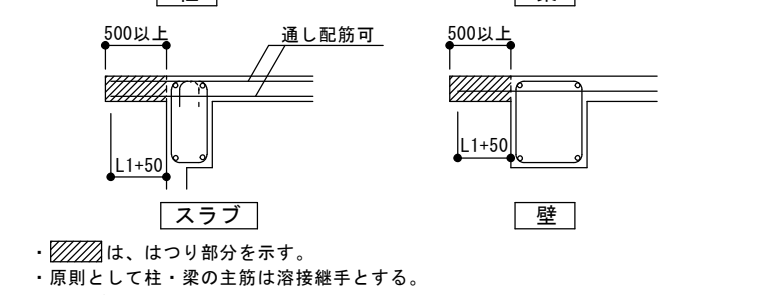
工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園及び津市立高岡幼稚園改修その他工事

図 面 名
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

図面番号

S-002

(原図A2)

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）			
4-4 補 助 筋		4-7 梁の貫通補強	
4-5 小 梁 及 び 片 持 梁	 ・印内に継手中心部を設けること、ただし溶接継手の場合は梁面より500以上はなすこと。  ・下端筋は水平定着でも可。上端筋には継手を設けてはならない。  ・下端筋は水平定着でも可。上端筋には継手を設けてはならない。	5-1 鉄筋の折曲げ 及び定着	
定 着	 ※ 地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-4項および設計図に示す。 余長LL { LL ≥ min(D', L2) } とする。 余長LLは構造計算によって確認すれば、それによっても良い。 ① 一般（独立基礎、杭打独立基礎）  ② 地反力（又は杭反力）を受ける場合  ※設計者の判断による。	5-2 継 手	
4-6 基礎梁および 基 礎 小 梁	※ 地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-4項および設計図に示す。 余長LL { LL ≥ min(D', L2) } とする。 余長LLは構造計算によって確認すれば、それによっても良い。 ① 一般（独立基礎、杭打独立基礎）  ② 地反力（又は杭反力）を受ける場合  ※設計者の判断による。	5-3 片 持 ち ス ラ ブ	
a) 基礎梁の 継手及び 定着	 ① 一般（独立基礎、杭打独立基礎）  ② 地反力（又は杭反力）を受ける場合  ※設計者の判断による。	5-4 補 強 筋	
b) 基礎小梁 の継手及び 定着	 ・印内に継手中心部を設けること、ただし溶接継手の場合は柱面より（基礎小梁の場合は梁面）より500以上はなすこと。Lbとれない場合4-5a定着によってよい。	6-1 定 着 及 び 継 手	
6-2 壁 配 筋		6-3 補 強 筋	
7-4 基礎と基礎梁		§ 8 その他	
8-1 階 段		スラブ階段	
8-2 土間コンクリート		R C壁・C B壁の補強	
8-3 打増し補強		柱	
8-4 増 築 予 定		梁	
		スラブ	
		壁	

鉄骨工作標準図(1)

1-1
基本事項

1-2
その他

§ 1 一般事項

1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4、5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
3) 製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

2-1
略号

§ 2 共通事項

・AB-----アンカーボルト
・BPL-----ベースプレート
・DFPL-----ダイアフラム
・FPL-----フランジプレート
・HTB-----高力ボルト
・SPL-----スプライスプレート
・WPL-----ウェブプレート

・BH-----組立てH形鋼
・CHPL-----チッカプレート
・FB-----フラットバー
・GPL-----ガセットプレート
・RPL-----リブプレート
・TB-----ターンバックル
・W1~W9-----溶接記号(§4参照)

3-1
高力ボルト

§ 3 ボルト接合

ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ	F8T, F10T	S10T
M16	30	25	
M20	35	30	
M22	40	35	
M24	45	40	

1. 特記以外はすべてS10T(トルシア形高力ボルト、上図)又はF10Tとする。
2. 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グラインダー掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締め付けは1次締め付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてF8Tとする。

3-2
高力ボルトのピッチ

呼び径		M16	M20	M22	M24
孔径		18	22	24	26
ピッチ	標準	60	60	60	70
	最小	40	50	55	60
はしあき	e	40	40(50)	40(55)	45(60)
最小縁端距離	せん断、手動ガス切断線	28	34	38	44
	圧延線、自動ガス切断線	22	26	28	32

()内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

3-3
形鋼のゲージ

ゲージ				千鳥打ちのピッチ b			
g2	M16, 20, 22			M24			
35	50			65			
40	45			60			
55	25			45			

3-3
形鋼のゲージ

A or B				B				B			
g1	g2	最大軸径		B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径	
**50	30	16	**100	60			16	**50	30	16	
60	35	16	125	75			16	65	35	20	
65	35	20	150	90			22	70	40	20	
70	40	20	175	105			22	75	40	22	
75	40	22	200	120			24	80	45	22	
80	45	22	250	150			24	90	50	24	
90	50	24	*300	150	40		24	100	55	24	
100	55	24	350	140	70		24				
125	50	35	400	140	90		24				
130	50	40									
150	55	55									
175	60	70									
200	60	90									

*B=300は千鳥打ちとする。
**印の欄のg及び最大軸径の値は強度上支障がないとき
最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

4-1
隅肉溶接

§ 4 溶接接合

1) 板厚の異なる場合

2.5以上

a>10

クレーンガーターの場合は、全て2.5倍以上の勾配をとる。

2) エンドタブ

両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
長さLは35以上かつ薄い方の板厚の2倍以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より5~10mmはなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。

3) 開先加工 (下図は参考とする。)

a) スクラップ工法

b) ノンスクラップ工法

機械加工タイプ

機械加工+ガス切りタイプ

4) 開先形状

記号	形状	適用板厚	寸法	
			アーク手溶接	ガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接
W2 MC-BL-B1 GC-BL-B1		6 ≤ T	G	7 +2 -2
			R	2 +1 -2
			α1	45° -5°
			G	9 +2 -2
			α1	35° -5°
W3 MC-BL-2 GC-BL-2		6 ≤ T ≤ 19	G	0 +4 -0
			R	2 +2 -2
			α1	45° -5°
			G	9 +2 -2
			α1	35° -5°
W4 MC-BK-2 GC-BK-2		6 < T	G	0 +4 -0
			d1	2/3 (T-R)
			R	2 +2 -2
			d2	1/3 (T-R)
			α1	45° -5°
W5 MC-B1-B1 GC-B1-B1		3 ~ 6 6 ~ 9	G	T -2
			T	-2
			G	6 -2
			T	-2
			G	6 -2

MC...はアーク手溶接 GC...はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

4-2
完全溶込み溶接 (突合せ溶接)

4-3
部分溶込み溶接

4-4
フレア溶接

4-5
その他

5-1
継手リスト

5-2
小梁仕口

ピン接合 Aタイプ

剛接合 Bタイプ

§ 5 継手

フランジ巾 250以下

フランジ巾 300

フランジ巾 350, 400

(ウェブ)

ウェブ

ボルト本数表示

(ウェブ)

材種	主材	高力ボルト	フランジ		ウェブ		ピッチ
			ボルト本数	外側添板	内側添板	ボルト本数	
	H- A × B × t1 × t2 BH- A × B × t1 × t2		2PL- t21 × a1 × L1	4PL- t22 × a2 × L1	2PL- t11 × a3 × L2		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		
	H- × × ×		× × ×	× × ×	× × ×		

1. フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差1mmを超える場合は、フィラーPLを入れて調整すること。
2. a3は原則として梁成の2/3以上確保すること。

A1タイプ

A2タイプ

A3タイプ

B1タイプ

B2タイプ

1. GPL, RPLは材種、板厚とも小梁のWPLと同等以上とする。
2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司
大臣登録番号 一級 No.215989
三重県知事登録 第1 -1 5 2 2 号
〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256) 2303/Fax 059(254) 0085

年月日
縮尺 NS
工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園及び津市立高岡幼稚園改修その他工事
図面名 鉄骨工作標準図(1)
図面番号 S-004
(原図A2)

鉄骨工作標準図(2)

§ 6 柱梁接合部及び継手

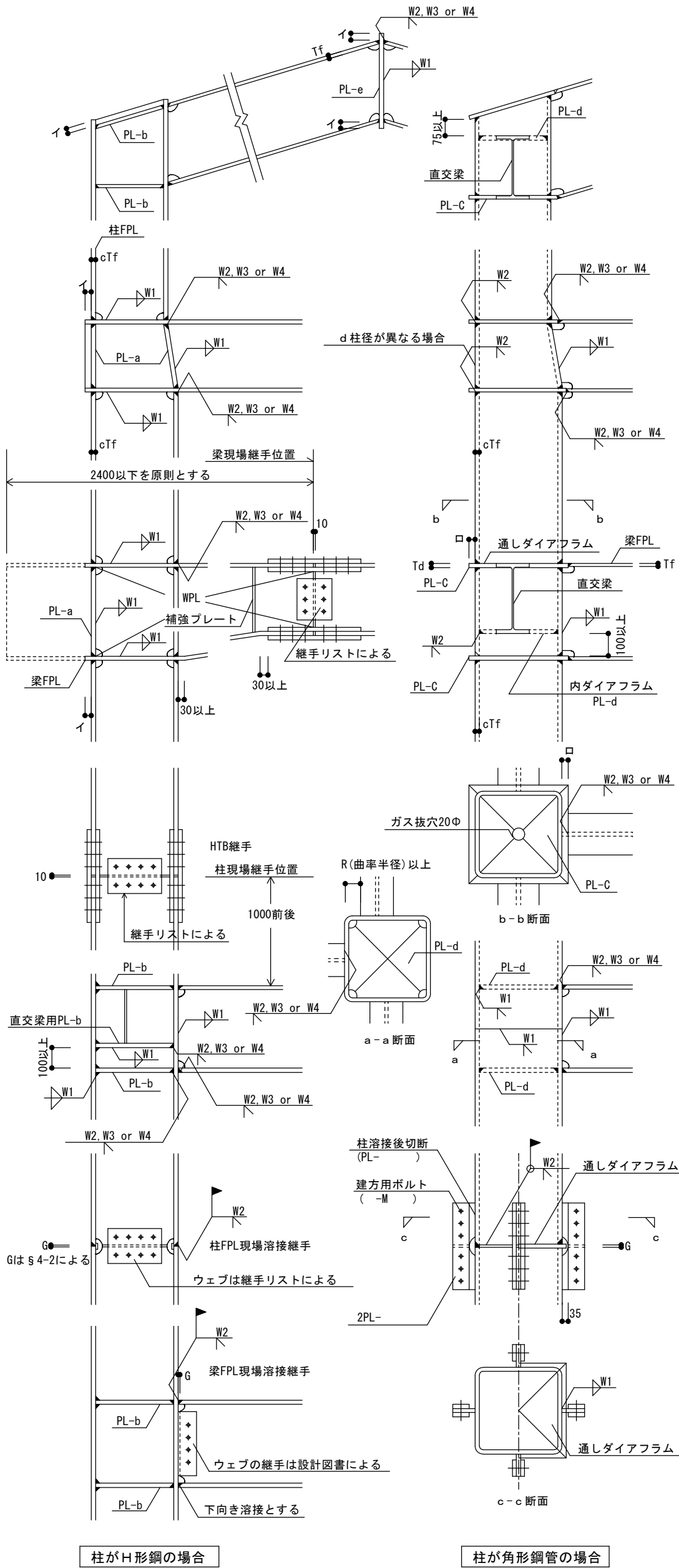
6-1
勾配屋根

6-2
梁通し

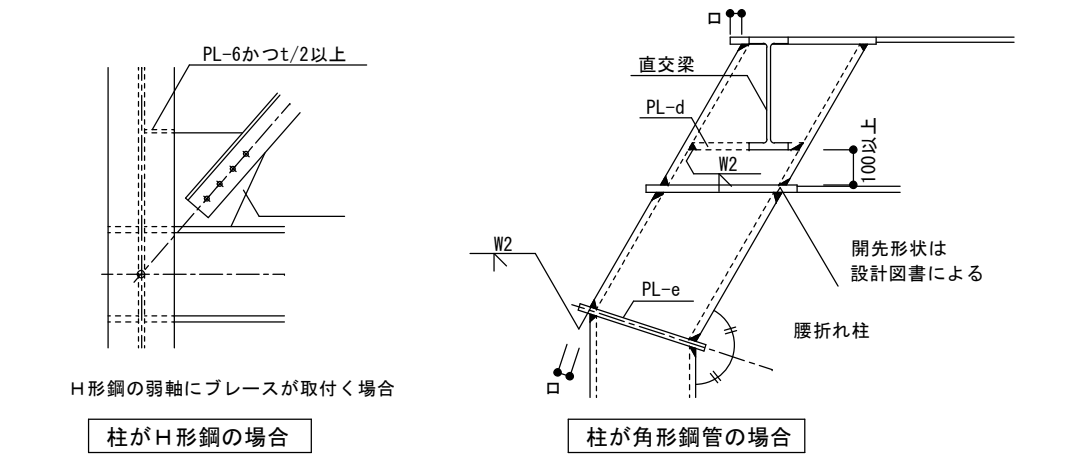
6-3
仕口と継手

6-4
柱通し

6-5
現場溶接継手



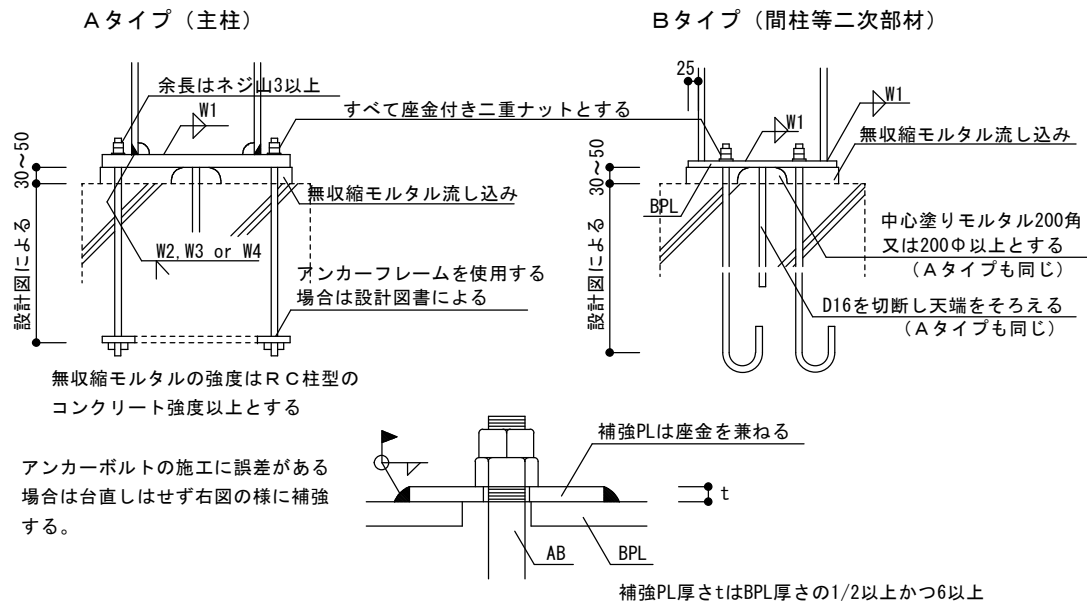
6-6
その他



- 1) パネルゾーンのPLの暑さ
1. PL-a (鉛直スチフナ) 上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
 2. PL-b (水平スチフナ) 仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
 3. PL-C (通しダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
 4. PL-d (内ダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上
 5. PL-e (折れ曲がり部) 梁(柱)のFPLより1サイズUP以上
- 2) 出寸法
- イ 25mmかつcTf以上
- ロ cTf ≤ 25の場合 25
- ハ cTf ≥ 28の場合 30
- 3) 注記
1. ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きいほうに同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
 2. d (6-2項) 上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
 3. ハンチ部で、FPLを折り曲げる場合は、R ≥ 10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
 4. ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
 5. 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行なう。

§ 7 柱脚

7-1
一般柱脚



§ 8 壁面ブレース

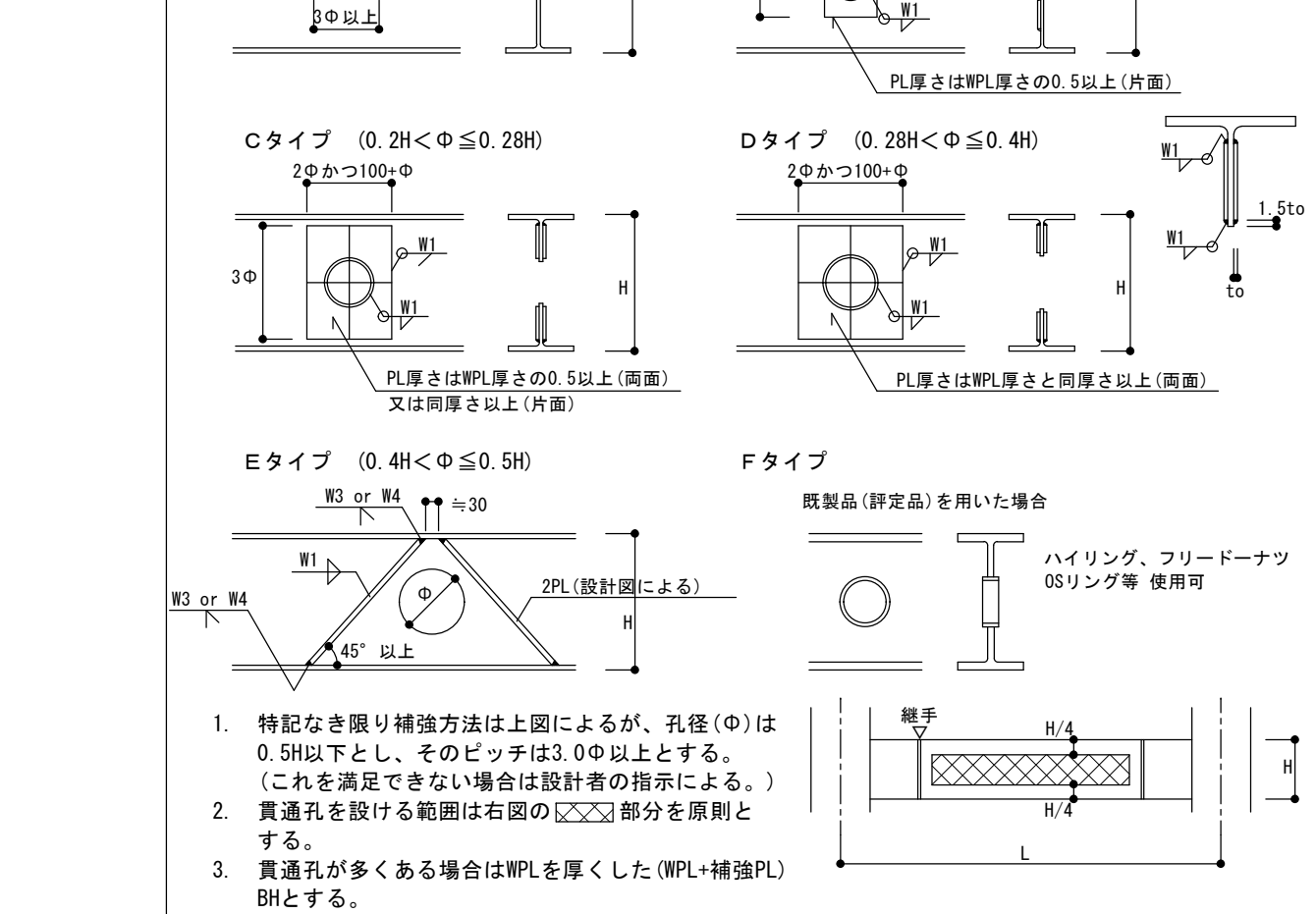
8-1
ブレースリスト



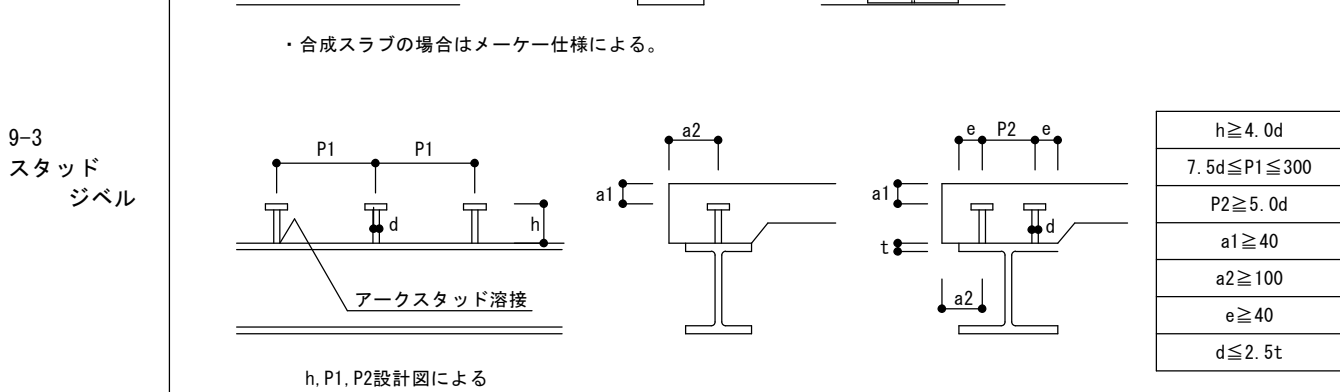
1. GPLの最小幅Leが確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共JIS規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

§ 9 その他

9-1
貫通補強

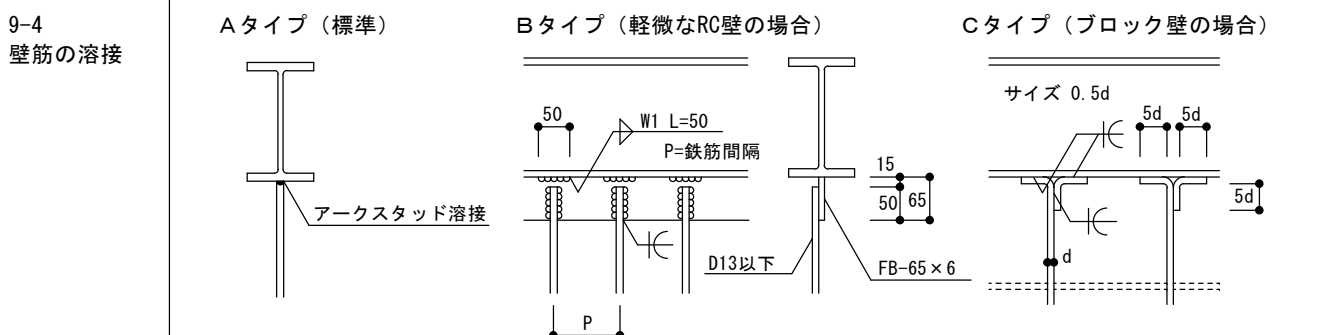


9-2
デッキプレート



9-3
スタッドジベル

9-4
壁筋の溶接



内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司

三重県知事登録 第1 - 1 5 2 2 号
〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085

年月日

工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園及び津市立高岡幼稚園改修その他工事

図面番号

縮尺
NS

図面名
鉄骨工作標準図(2)

S-005

(原図A2)

ボーリング柱状図

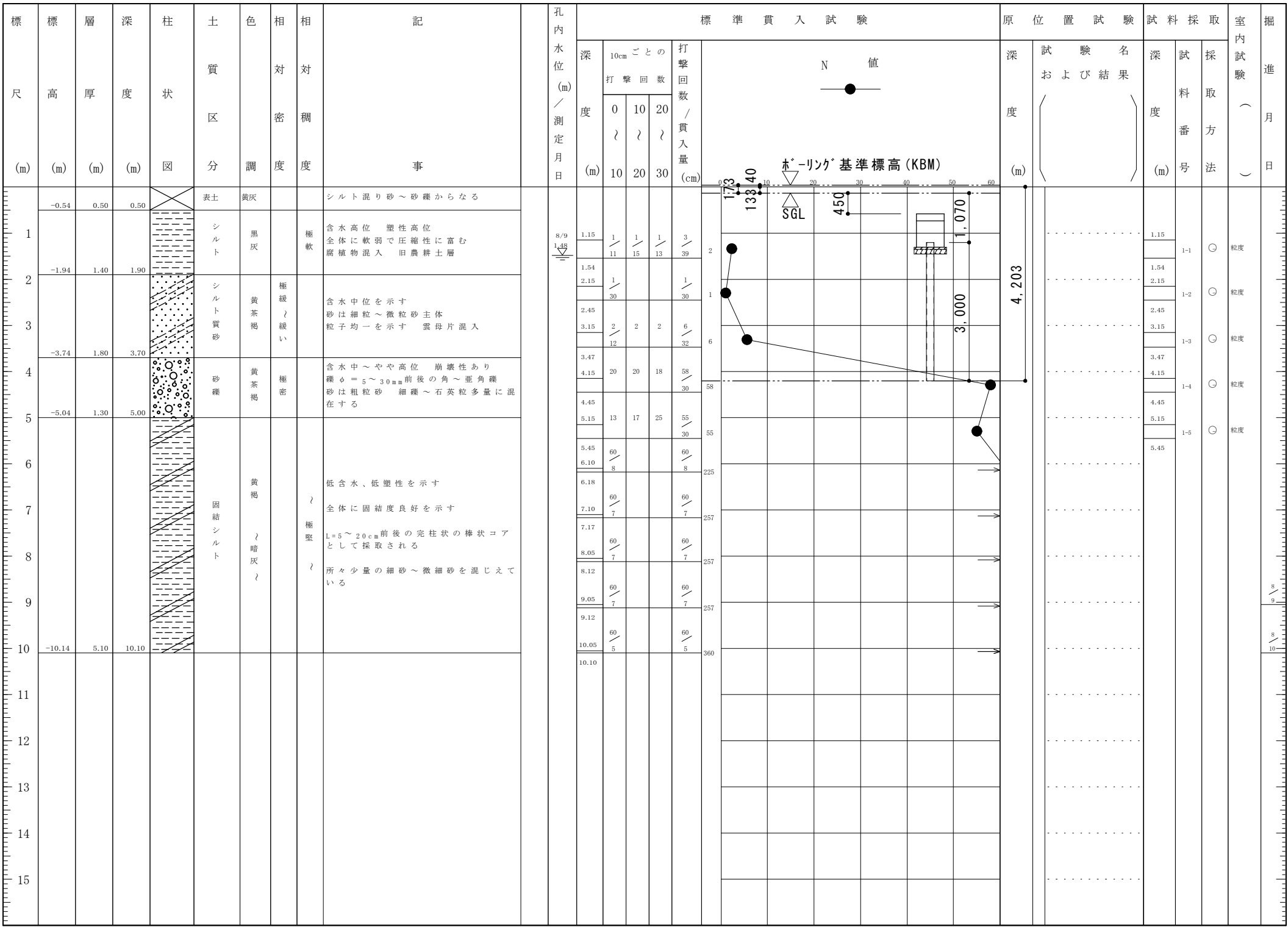
調査名 (仮称)一志こども園整備に係る地質調査業務委託

ボーリング№

事業・工事名 平成29年度営子推第1-29号

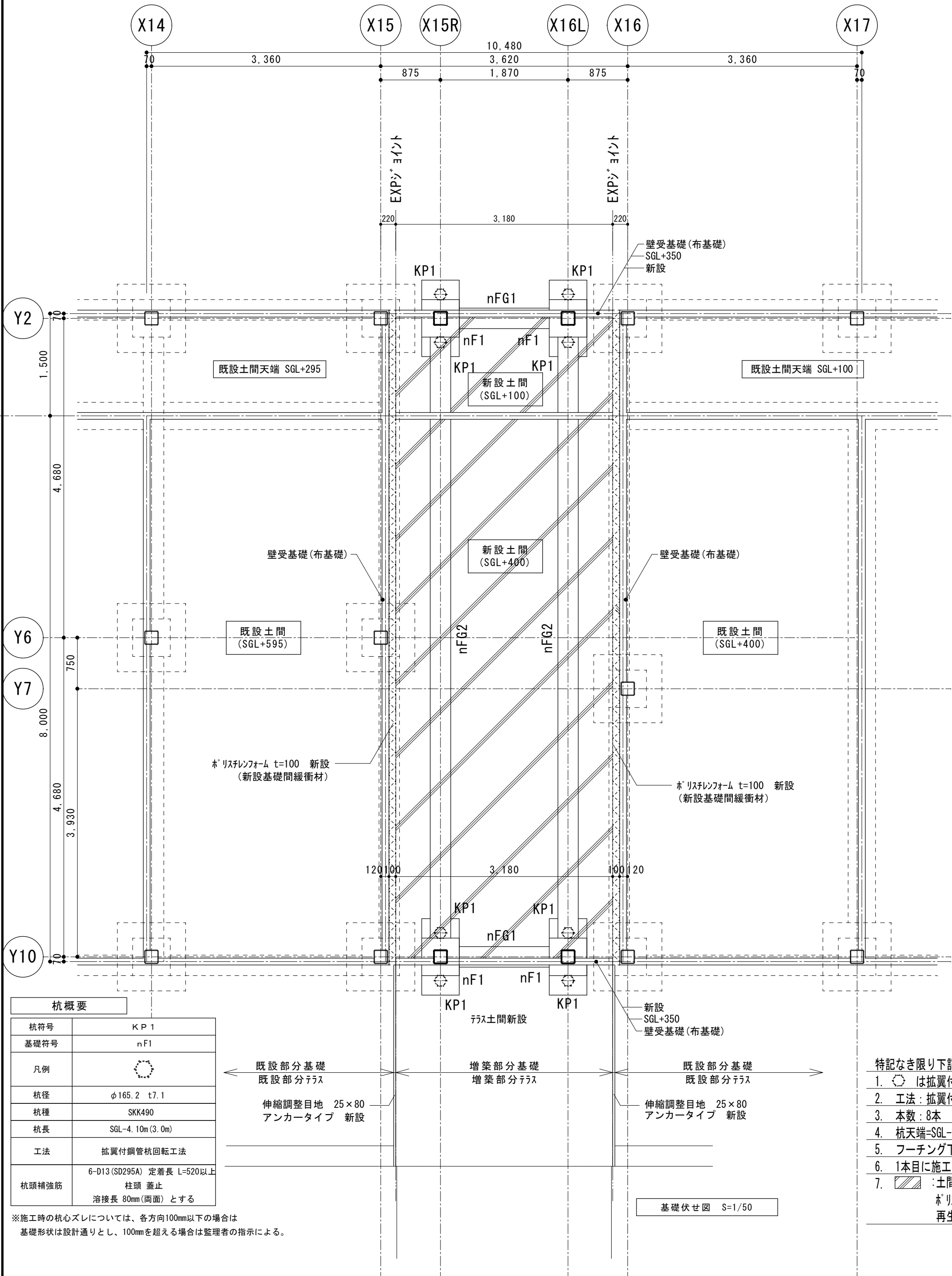
シート№

ボーリング名	N O . 1			調 査 位 置		三 重 県 津 市 一 志 町 高 野 地 内					北 緯		3 4 ° 3 9 ' 3 8 . 4 7 1 "			
発 注 機 関	津 市 建 設 部 営 繕 課					調 査 期 間		平 成 2 9 年 7 月 3 1 日 ～ 2 9 年 9 月 1 4 日					東 経		1 3 6 ° 2 5 ' 5 0 . 2 1 3 "	
孔 口 標 高	KBM -0.04m	角 	方 	地 盤 勾 配 	使 用 機 種	試 錐 機		Y B M - 0 5 D A - 2 型		ハン マー 落 下 用 具		半 自 動 落 下 装 置 法				
総 掘 進 長	10.10m					度	向	エ ン ジ ン		K U B O T A - E A 1 1 型		ポ ン プ		カ ノ V 4 - A 型		



内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司
大臣登録番号 一級 №215989
三重県知事登録 第1 -1 5 2 2 号
〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085

年月日	工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園 及び津市立高岡幼稚園改修その他工事	図面番号
縮尺 NS	図面名 ボーリング柱状図	S-006 (原図A2)



拡翼付鋼管杭回転工法特記仕様書

1. 工事概要
本工法は拡翼付鋼管杭を回転貫入させ、所定の支持地盤にて支持力を発現させる工法である。
2. 特記概要
1、本工事の施工業者は、拡翼付鋼管杭回転工法の施工技術に精通したものとする。
2、軸径、拡翼径、貫入深度、本数、配置等は設計図による。
3、鋼管材料はSTK490（同等以上）とする。
4、施工は拡翼の回転時に発生する推進力と、必要に応じて圧入力を加えて貫入させる事。
5、打止めは地盤調査結果を照合し、回転トルクを確認した後、打止めとする。
6、施工機械は、施工データを記録できる装置（施工管理計測器）を装備したもので、自走式とする。
3. 一般事項

鋼管杭径 (mm)	鋼管杭厚さ (mm)	拡翼径 (mm)	拡翼厚さ (mm)	施工長 (m)	セット
165.2	7.1	350	16	3.0	8

- 2、工事に先立ち、「基礎杭施工計画書」を監督員に提出する。
施工計画書は以下の項目について詳細に記載し、杭全数の施工記録を整備保管する。
- 杭、その他使用する材料の規格・品質確認の方法
 - 材料の現地搬入時における規格・品質・納入数量の確認方法
 - 工法の名称、概要、使用材料、適合条件、杭の支持力算定式を示した関連書類
 - 地盤の概要や設計支持力に関する事項
 - 施工の概要、手順、及び施工順序に関する事項
 - 仕様する機械設備に関する事項、および当該機械の性能の仕様に関する事項
 - 機械設備等の配置平面図、側面図
 - 試験杭等の目的、場所、時期、及び試験結果の反映方法等に関する事項
 - 杭打設における施工管理方法に関する事項
 - 掘削速度、杭芯ずれ、鉛直度、杭頭高さ（打止め高さ）、所定深度への到達、支持層管理、トルク値の確認方法、その他、各段階における必要な施工管理項目
 - 継手の施工管理方法に関する事項
 - 溶接前の溶接面の有害物除去状況、溶接時の天候、その他必要な施工管理項目
 - 施工及び施工管理に関して、技術者及びその他作業人員の配置、役割、チェック体制及び責任の所在
 - 取得すべき施工記録が取得できる状態で施工を実施する事。
 - 上記のほか必要な事項

4. 報告

杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ翌週以内に監督員に工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受ける。
また、トルク値が記録されたチャート紙等原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受ける。
工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、2部を監督員にすみやかに提出する。

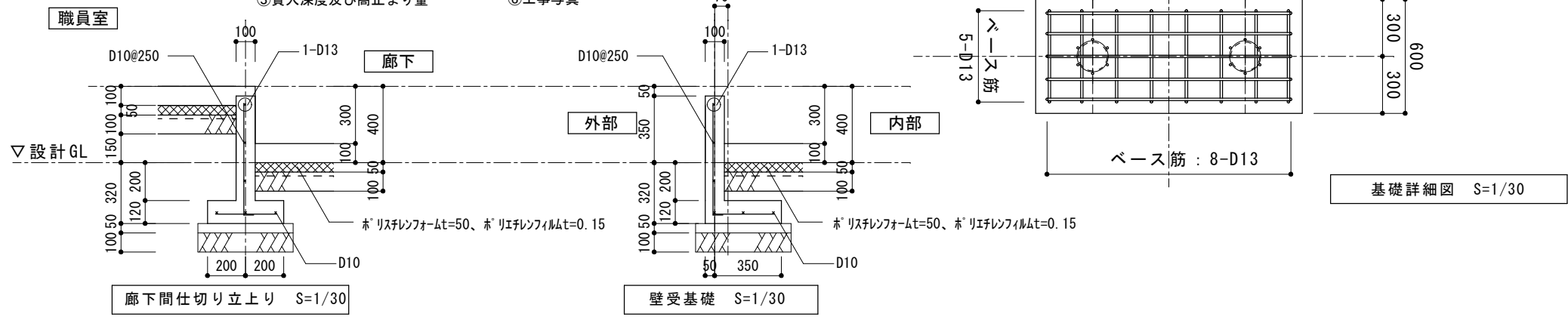
- ①施工図及び施工番号

②施工日

③貫入深度及び高止まり量
- ④最終トルク値

⑤施工データ

⑥工事写真



地中梁リスト S=1/50

符 号	nFG1	nFG2	符 号	nF1
	全断面	全断面		全断面
姿 図			姿 図	
上 端 筋	3-D19	3-D19	主 筋	12-D19
下 端 筋	3-D19	3-D19	H O O P	D10@100
S T P	D10@200	D10@200	D H	D10@300
腹 筋	2-D10	2-D10	柱 アンカー	BPL-32 リブ PL-9 H=150 A. Bolt 4-M20 L=600 (ABR400 JIS B 1220)
巾 止 筋	D10@400	D10@400		

特記なき限り下記とする。

- は拡翼付鋼管杭（杭径φ165.2、L=3,000）位置を示す。
- 工法：拡翼付鋼管杭回転工法
- 本数：8本
- 杭天端=SGL-1.070
- フーチング下端=SGL-1.200
- 1本目に施工する杭を試験杭とする。
- 土間コンクリート t=100 打・30共D10@200(S)
※ リスチンフォームt=50、※ リスチンフィルムt=0.15
再生切込砕石 t=100

既設部→増築部のガリタシについて
直行する方向(8,000)の1/100以下(80mm以上)
かつ高さ(4,245)方向の1/50以下(85mm以上)
なので 本工事の基礎間(一番近い)を「100mm」としています。

内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司
大臣登録番号 一級 No.215989

三重県知事登録 第1 - 1 5 2 2 号
〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085

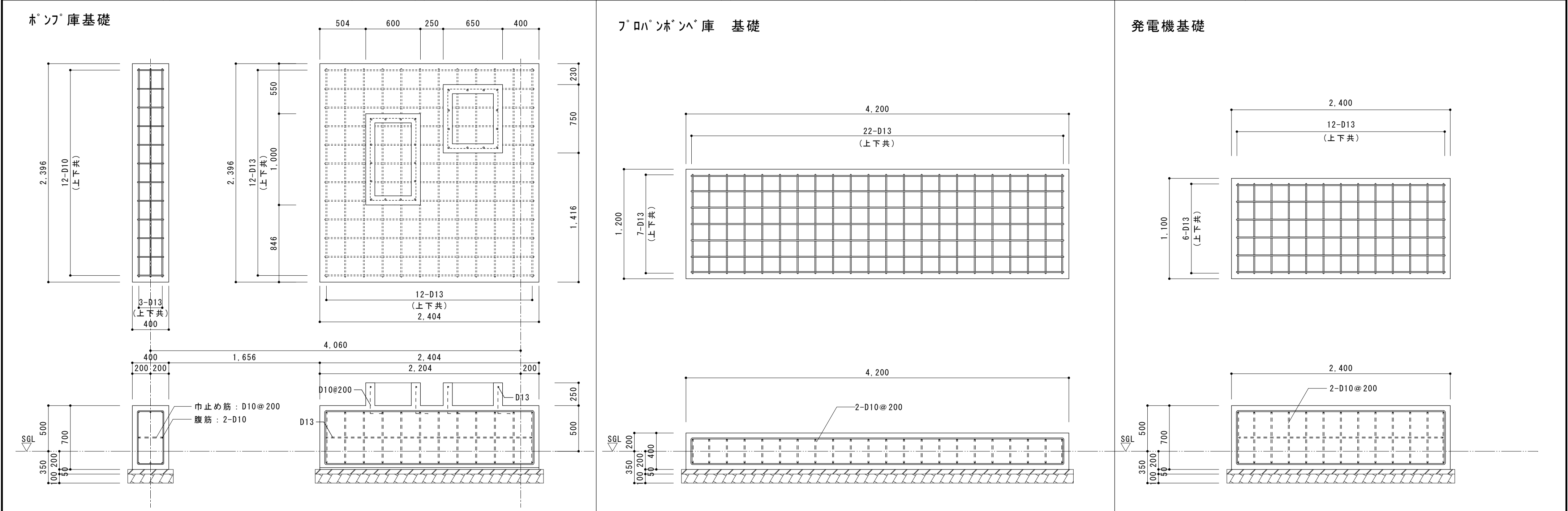
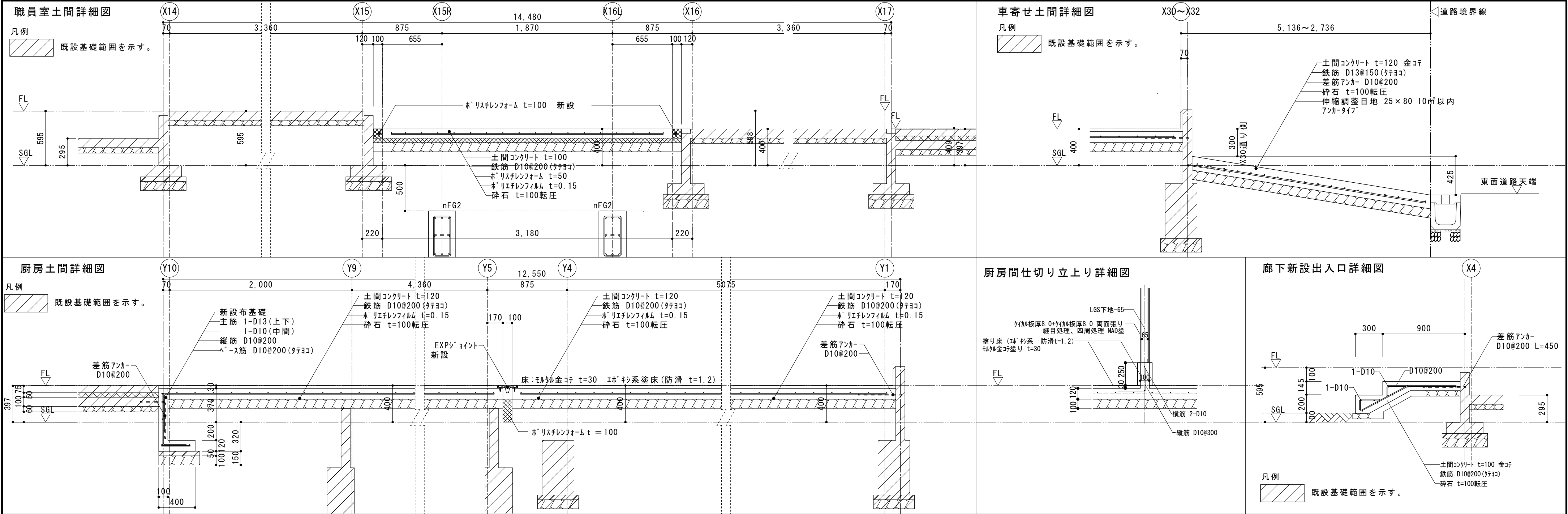
年月日
工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園
及び津市立高岡幼稚園改修その他工事

縮 尺
1/50 1/30
図 面 名
基礎伏せ図・基礎詳細図

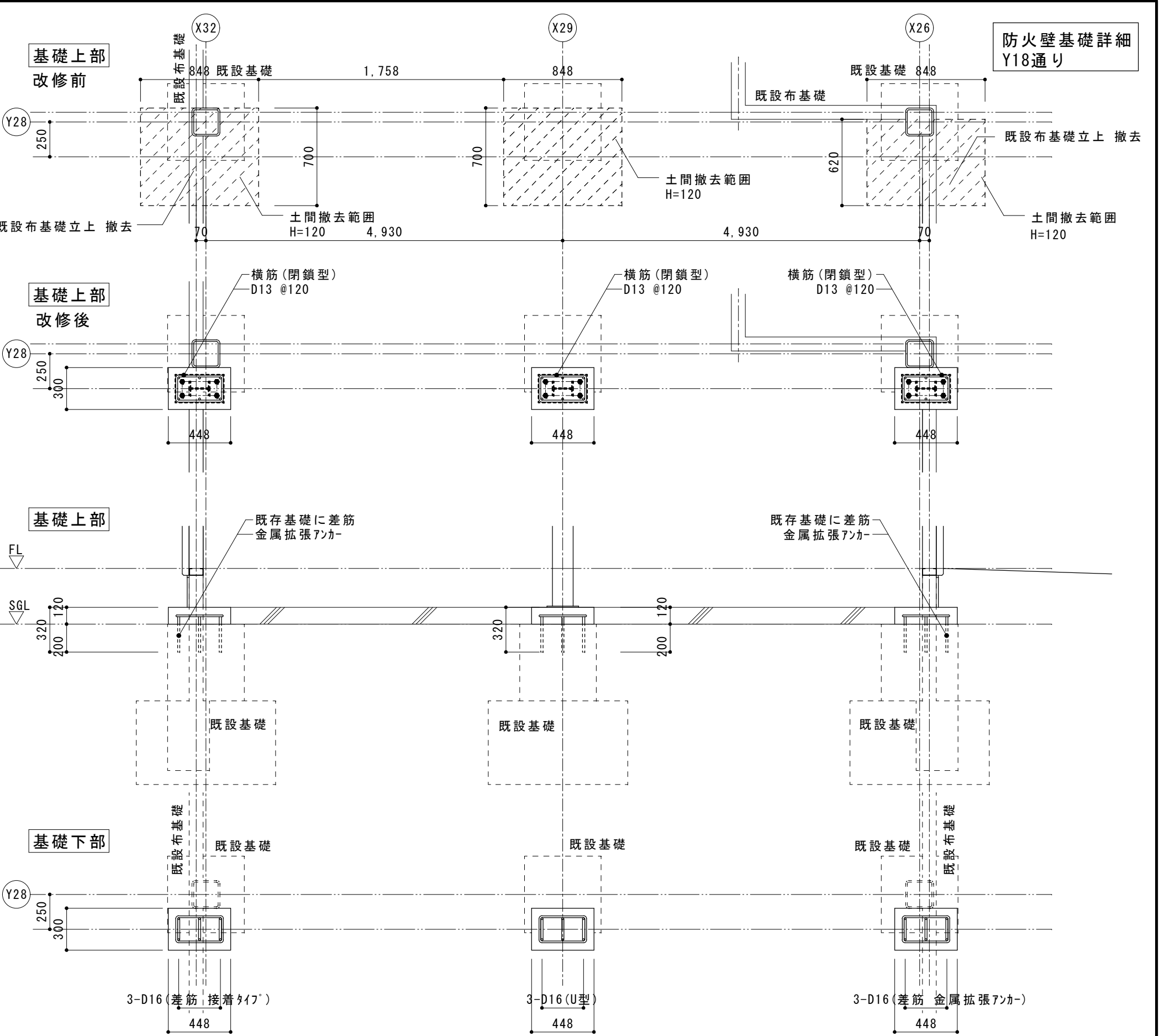
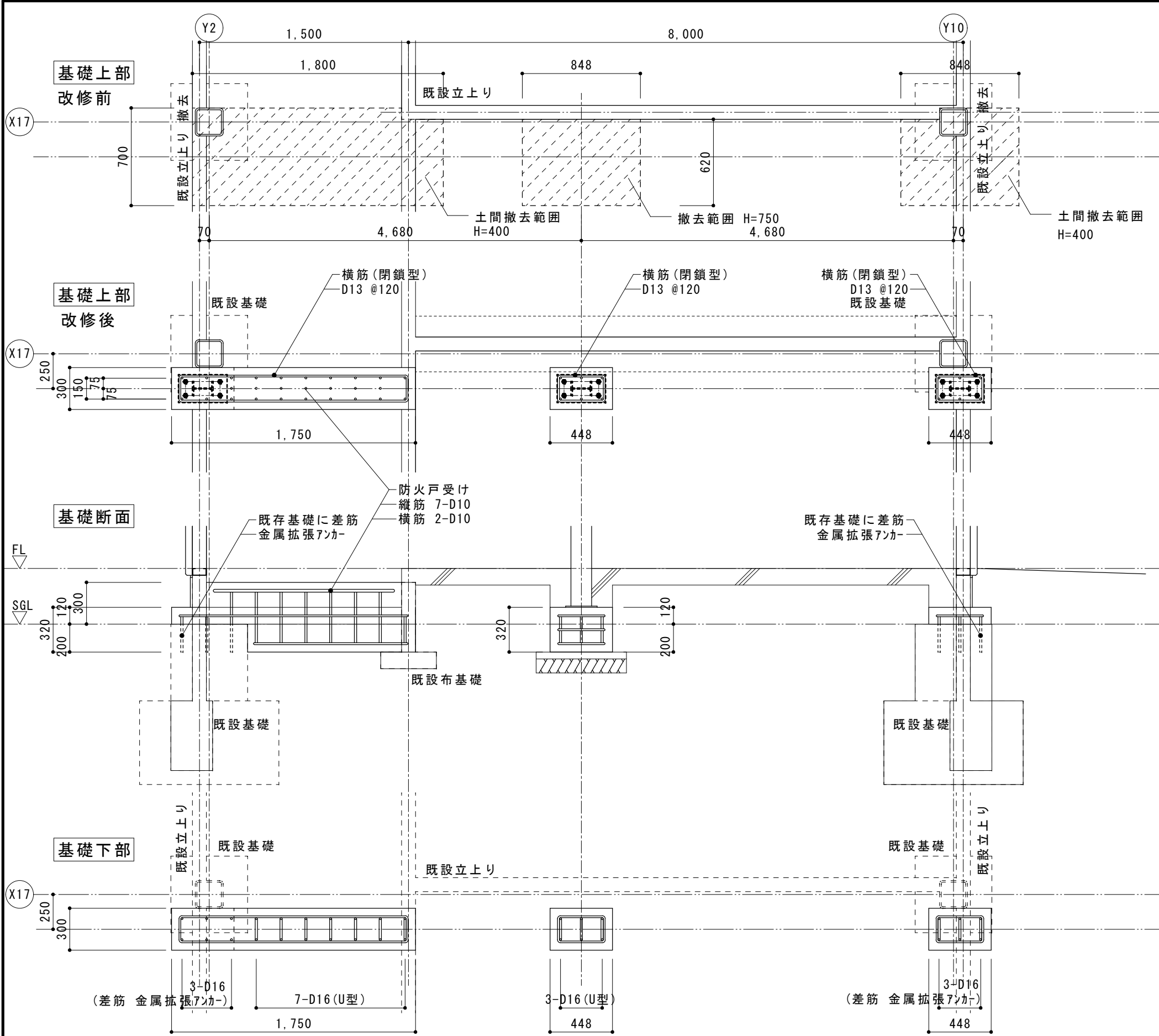
図面番号

S-007

(原図A2)

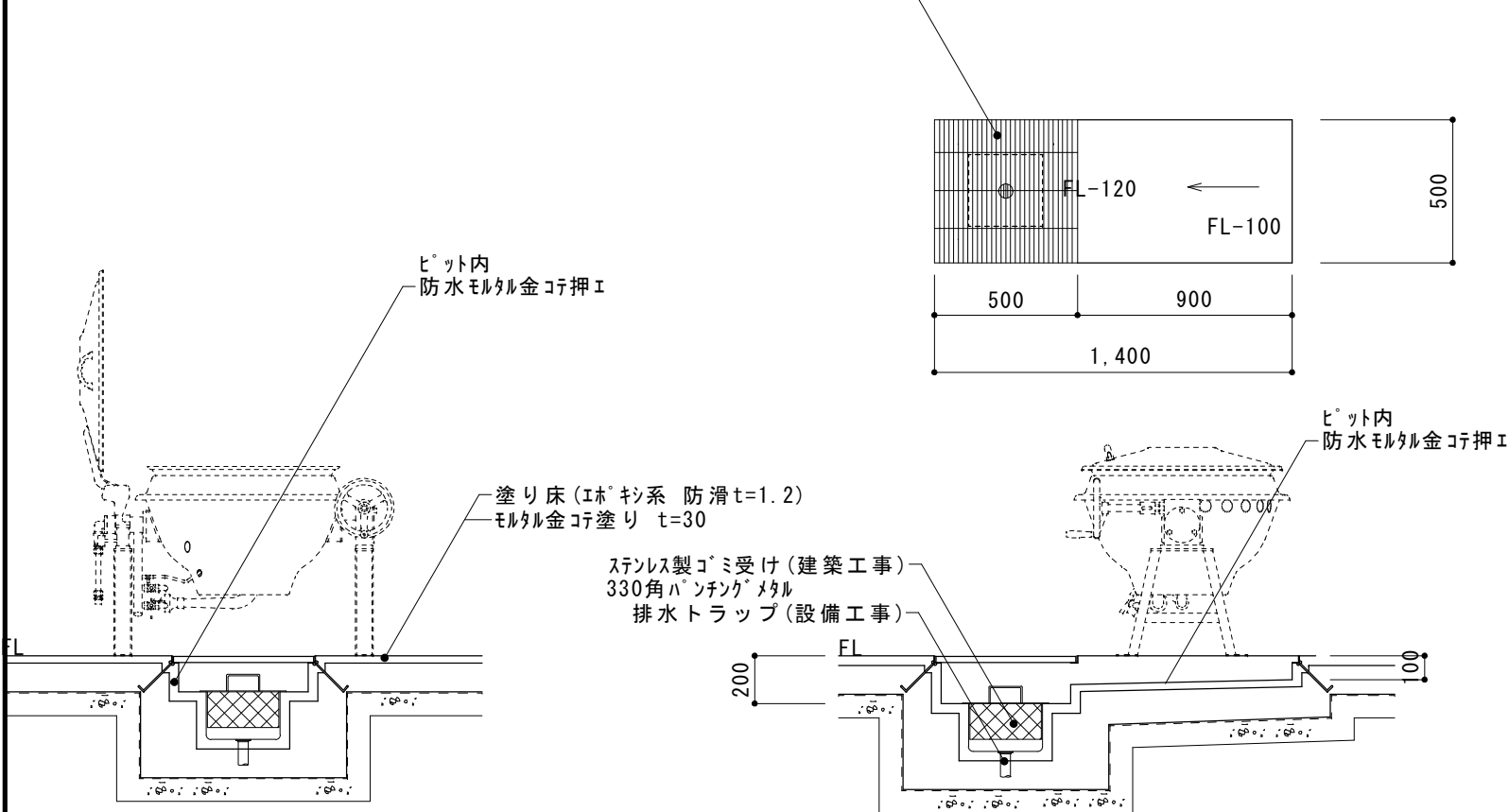


内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司 三重県知事登録 第1 - 1 5 2 2 号 〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085				年月日	工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園 及び津市立高岡幼稚園改修その他工事	図面番号 S-008
				縮尺 1/30	図面名 基礎詳細・その他詳細図(1)	(原図A2)

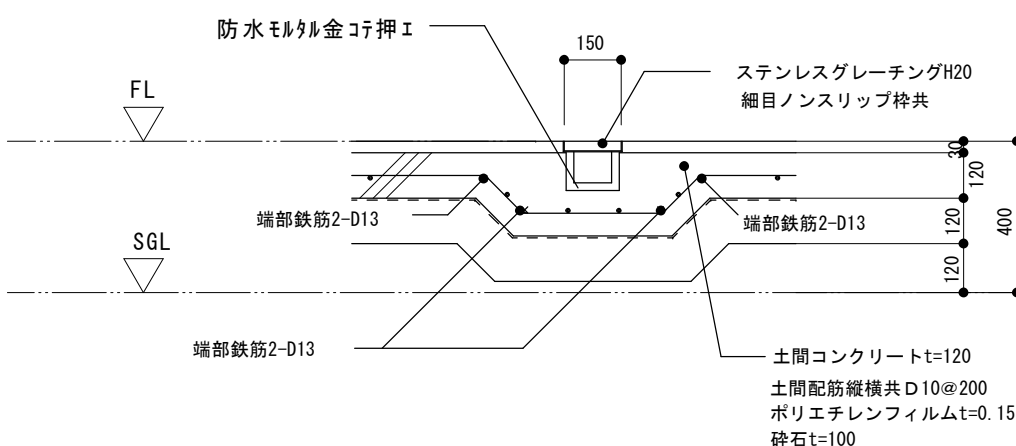


調理室：ガス回転釜ヒット詳細図

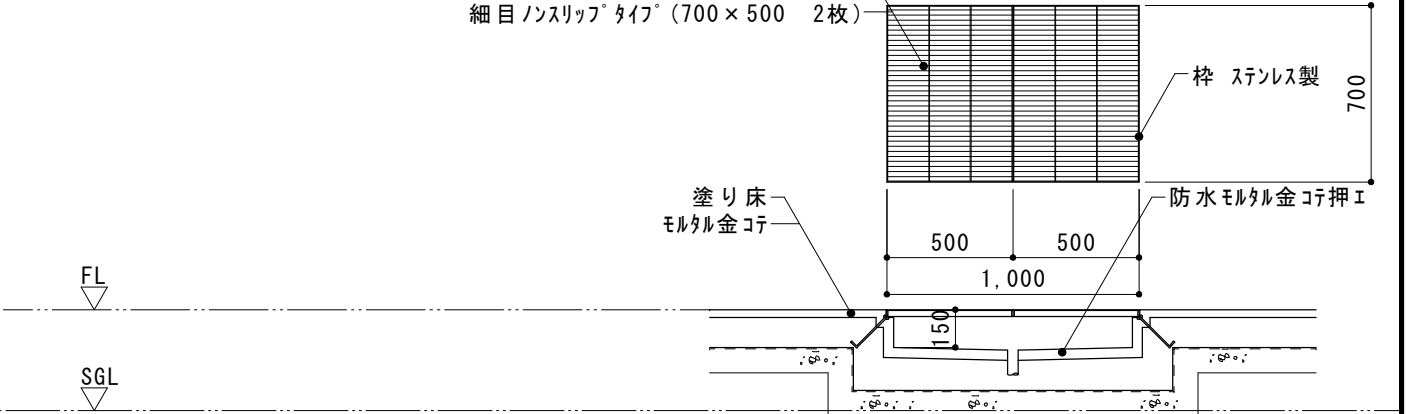
ステンレス製グリレーチング 500×500
細目ノンスリップタイプ



調理室・下処理室・検査室・洗浄室・前室：グリレーチング詳細図
S=1/20



配膳室：洗い場詳細図

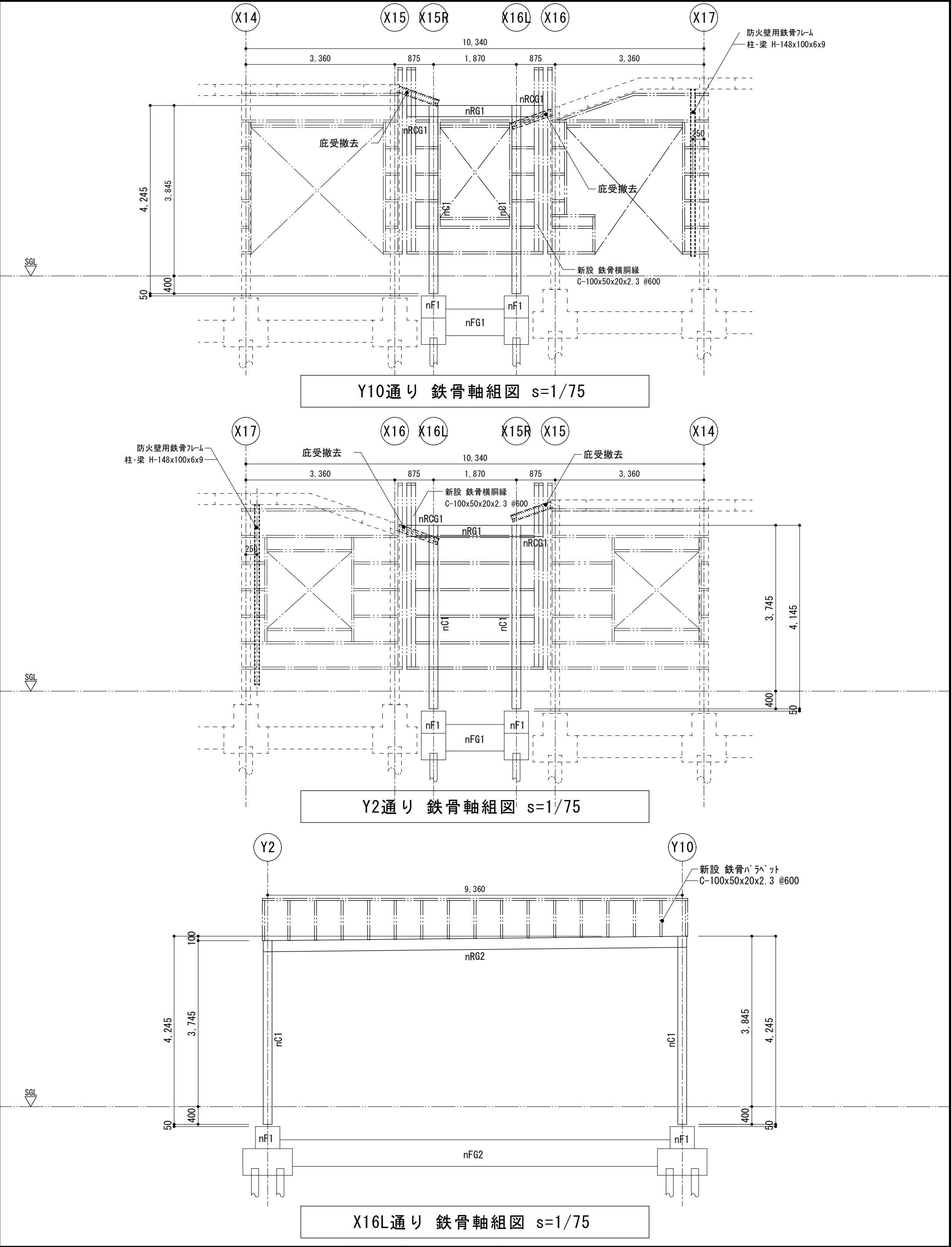
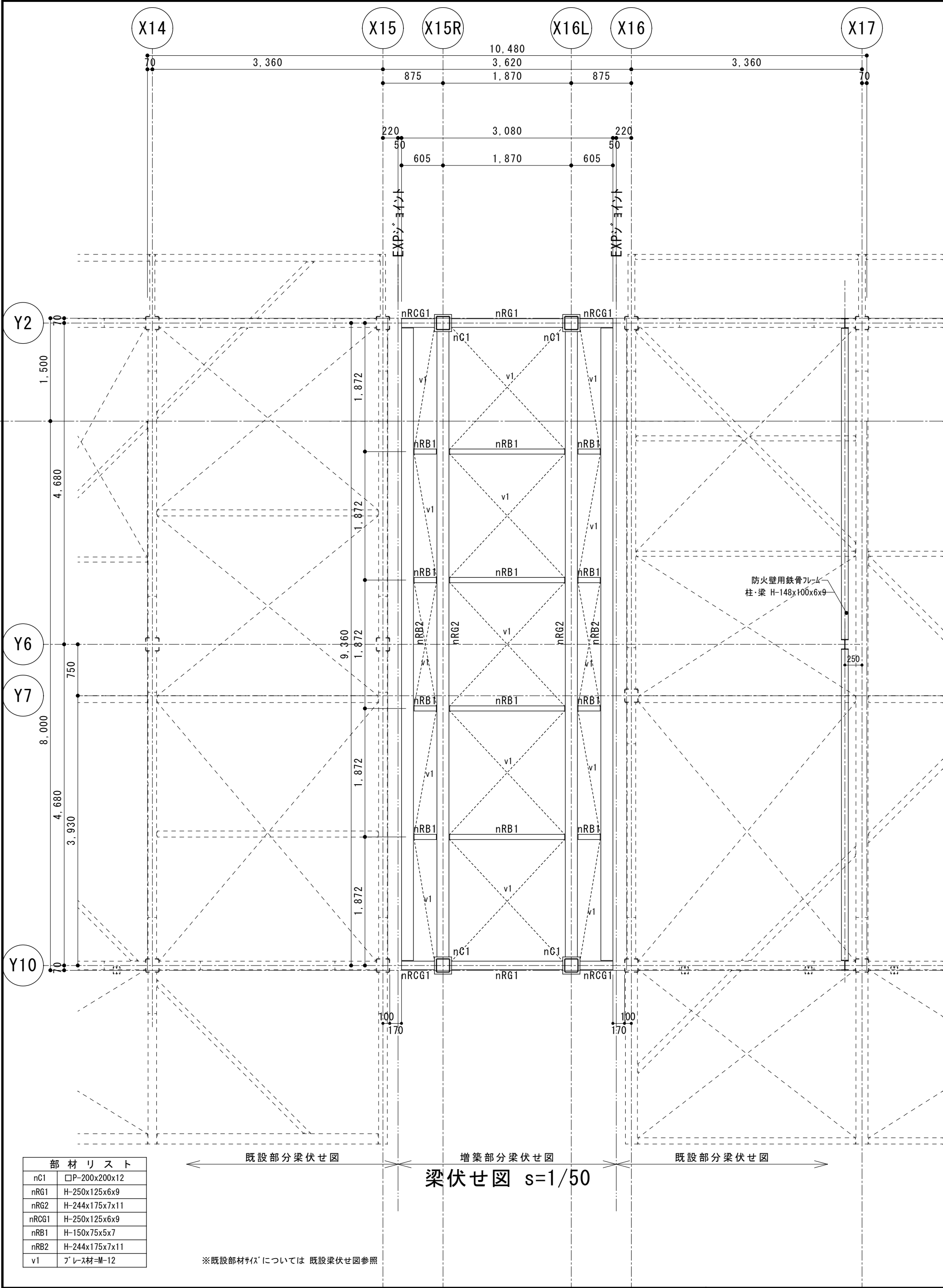


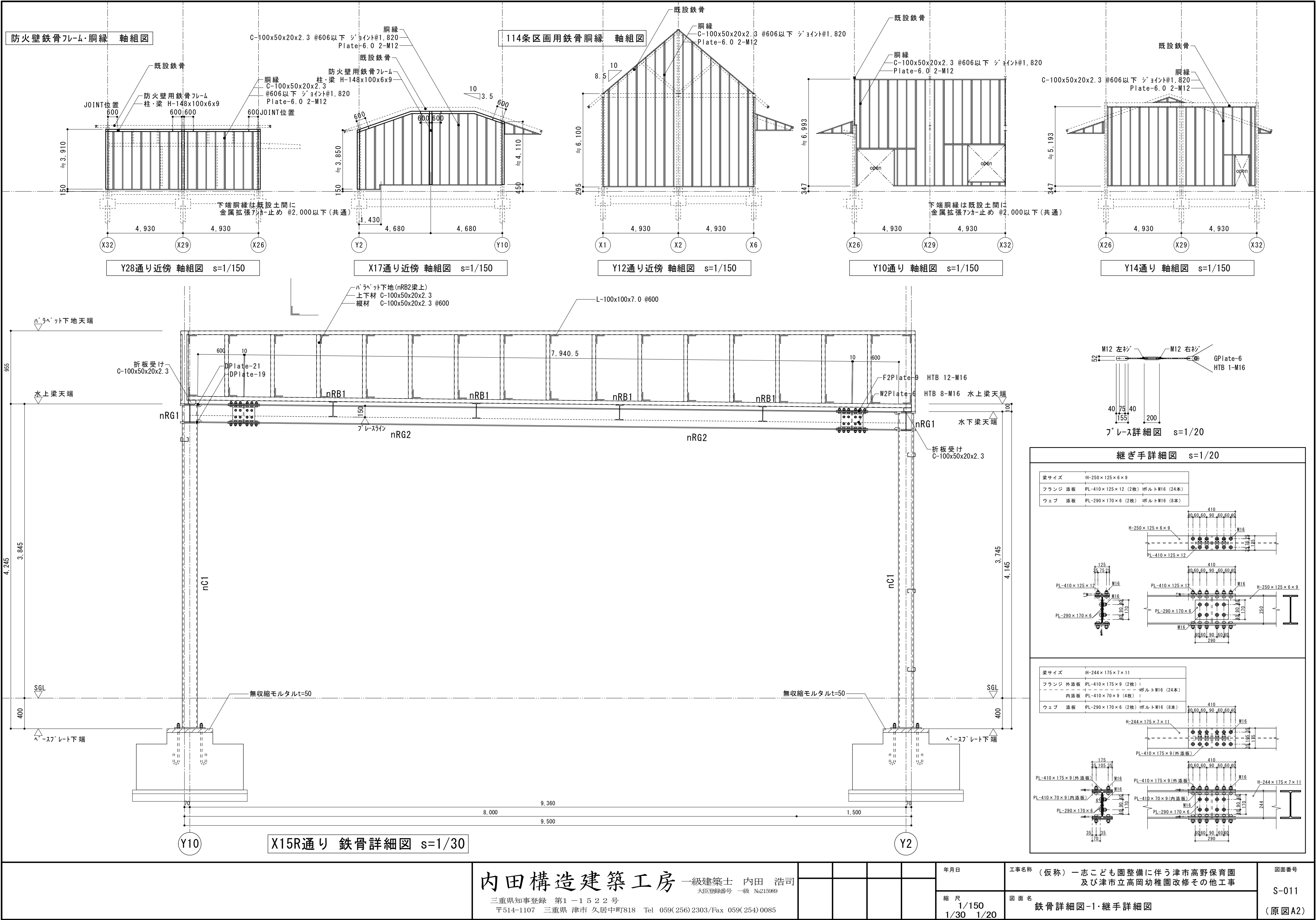
内田構造建築工房

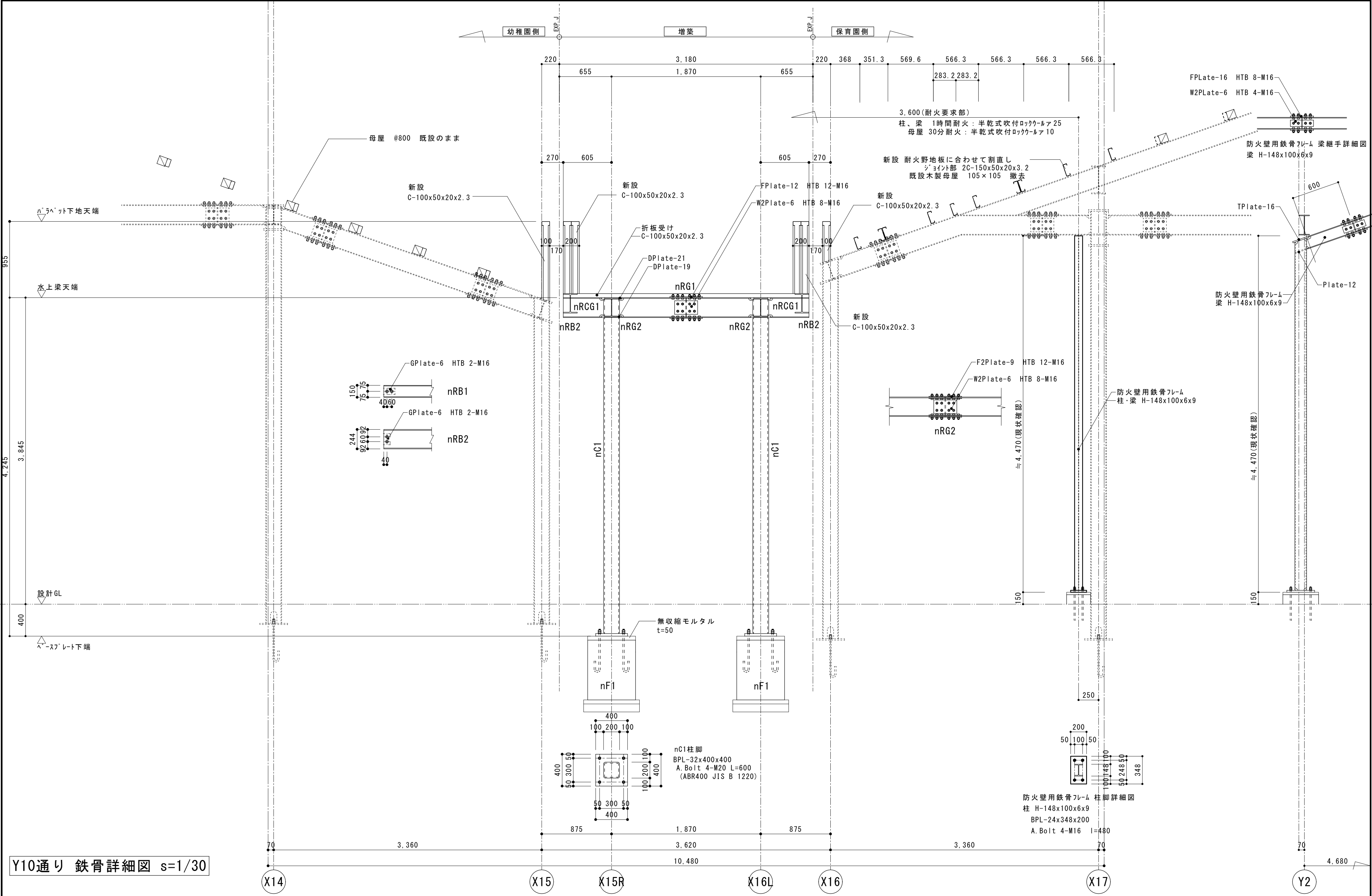
一級建築士 内田 浩司
大臣登録番号 一級 No.215989

三重県知事登録 第1 - 1 5 2 2 号
〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085

年月日	工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園及び津市立高岡幼稚園改修その他工事	図面番号 S-009 (原図A2)
縮尺 1/30・1/20	図面名 その他詳細(2)	



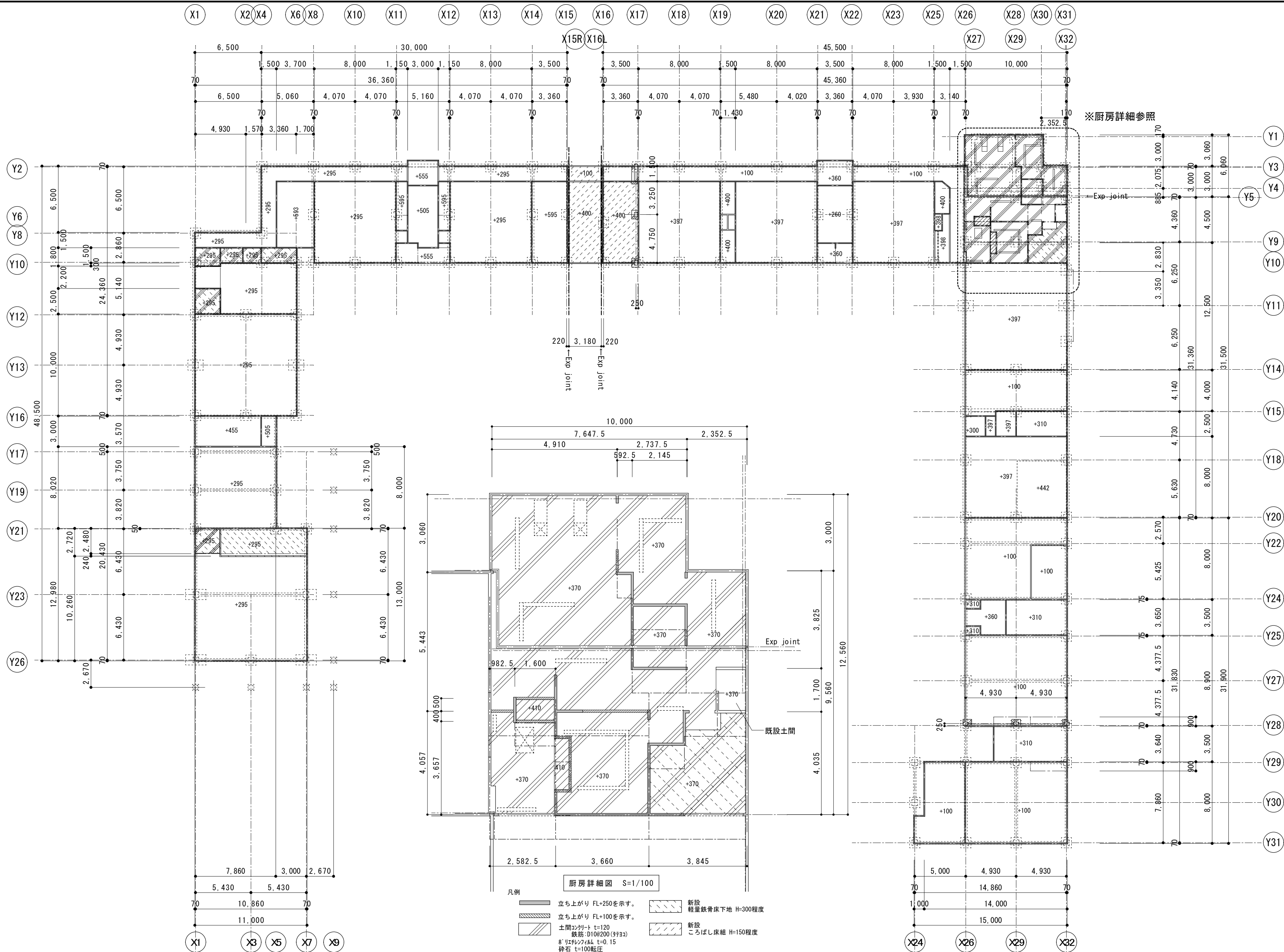




Y10通り 鉄骨詳細図 s=1/30

内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司 三重県知事登録 第1 - 1 5 2 2 号 〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085				年月日	工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園 及び津市立高岡幼稚園改修その他工事		図面番号
				縮尺 1/30	図面名 鉄骨詳細図-2		S-012 (原図A2)





内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司
大臣登録番号 一級 No.215989

三重県知事登録 第1 -1 5 2 2 号
〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085

年月日

工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園
及び津市立高岡幼稚園改修その他工事

図面番号

S-014

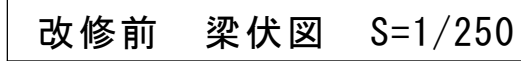
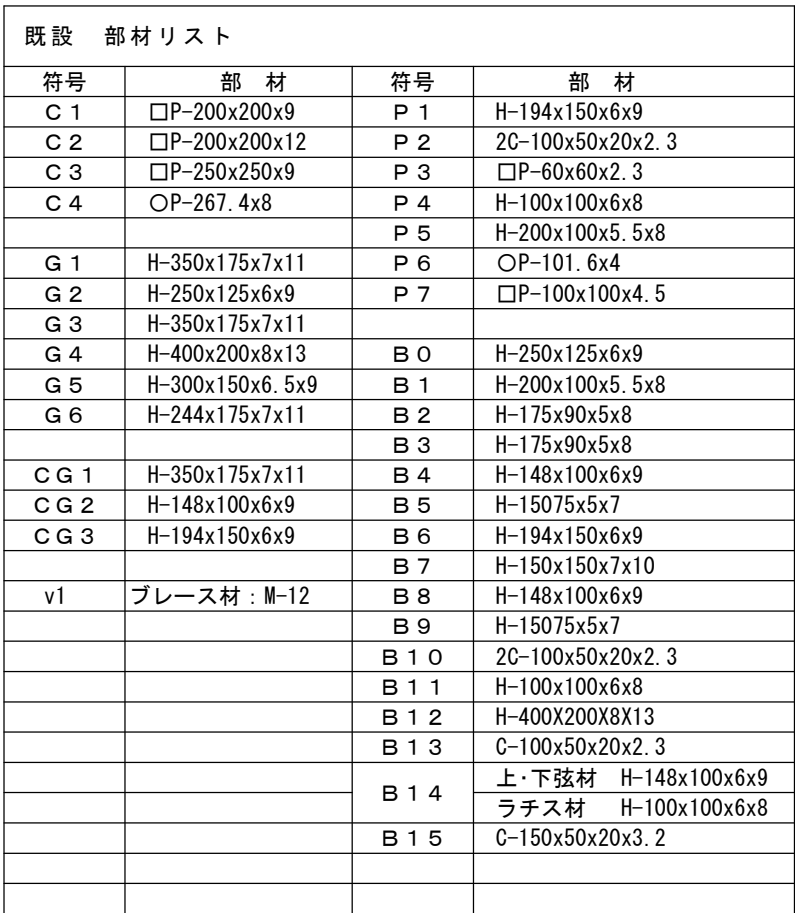
(原図A2)

縮尺

1/250

図面名

改修後 土間伏図



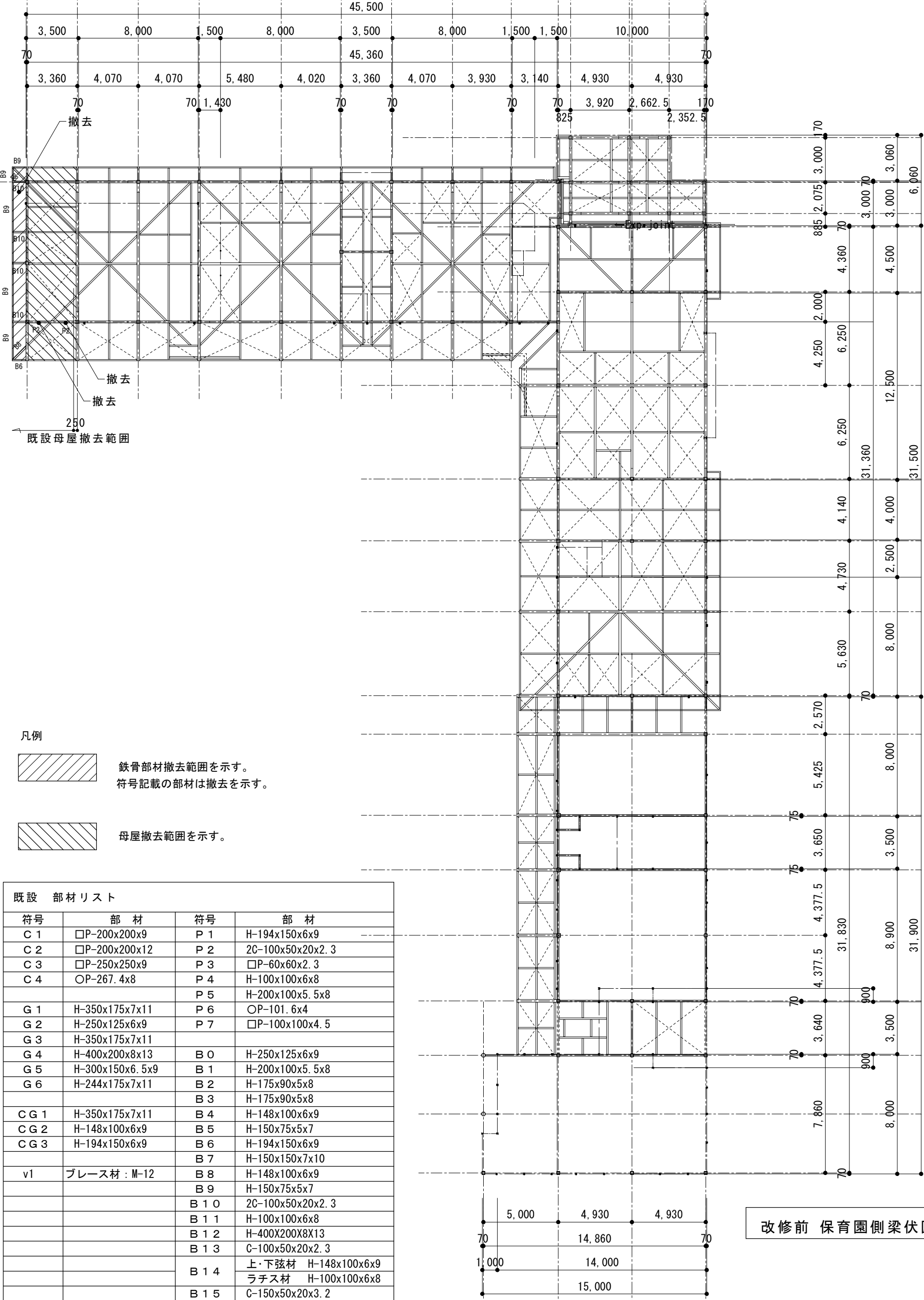
鉄骨部材撤去範囲を示す。
符号記載の部材は撤去を示す。



耐火被覆範囲を示す。

柱、梁	1時間耐火：半乾式吹付ロックウールA25
母屋	30時間耐火：半乾式吹付ロックウールA10





既設 部材リスト			
符号	部 材	符号	部 材
C 1	□P-200x200x9	P 1	H-194x150x6x9
C 2	□P-200x200x12	P 2	2C-100x50x20x2. 3
C 3	□P-250x250x9	P 3	□P-60x60x2. 3
C 4	○P-267. 4x8	P 4	H-100x100x6x8
		P 5	H-200x100x5. 5x8
G 1	H-350x175x7x11	P 6	○P-101. 6x4
G 2	H-250x125x6x9	P 7	□P-100x100x4. 5
G 3	H-350x175x7x11		
G 4	H-400x200x8x13	B 0	H-250x125x6x9
G 5	H-300x150x6. 5x9	B 1	H-200x100x5. 5x8
G 6	H-244x175x7x11	B 2	H-175x90x5x8
		B 3	H-175x90x5x8
C G 1	H-350x175x7x11	B 4	H-148x100x6x9
C G 2	H-148x100x6x9	B 5	H-150x75x5x7
C G 3	H-194x150x6x9	B 6	H-194x150x6x9
		B 7	H-150x150x7x10
v1	ブレース材 : M-12	B 8	H-148x100x6x9
		B 9	H-150x75x5x7
		B 1 0	2C-100x50x20x2. 3
		B 1 1	H-100x100x6x8
		B 1 2	H-400x200x8x13
		B 1 3	C-100x50x20x2. 3
		B 1 4	上・下弦材 H-148x100x6x9
			ラチス材 H-100x100x6x8
		B 1 5	C-150x50x20x3. 2

改修前 保育園側梁伏図 S=1/250

防火区画壁下地
柱・梁 H-148x100x6x9
胴縁 C-100x50x20x2. 3

114条区画壁下地
C-100x50x20x2. 3

耐火要求範囲 母屋新設

新設 部材リスト 特記なき限り ボルトは高力ボルトS10Tとする					
符号	部 材	ボルト	プレート	使用材料	備 考
n C 1	□P-200x200x12	柱脚リスト参照		S T K R 4 0 0	
n R G 1	H-250x125x6x9	継手詳細図参照		S S 4 0 0	
n R G 2	H-244x175x7x11	継手詳細図参照		S S 4 0 0	
n R C G 1	H-250x125x6x9	継手詳細図参照		S S 4 0 0	
n R B 1	H-150x75x5x7	2-M16	GPL-6	S S 4 0 0	
n R B 2	H-244x175x7x11	2-M16	GPL-6	S S 4 0 0	
胴 縁	C-100x50x20x2. 3	普通ボルト 2-M16	PL-6	S S C 4 0 0	@606、開口補強 (ﾀﾝｺｺ共)
母 屋	C-150x50x20x3. 2	普通ボルト 2-M16	PL-6	S S C 4 0 0	@606
v1	ブレース材 : M-12	1-M16	GPL-6		ターンバックル付

凡例



耐火被覆範囲を示す。
柱、梁 1時間耐火 : 半乾式吹付ロックウール25
母屋 30時間耐火 : 半乾式吹付ロックウール10

防火区画壁下地
柱・梁 H-148x100x6x9
胴縁 C-100x50x20x2. 3

告示1436号区画壁下地
114条区画壁下地
C-100x50x20x2. 3

114条区画壁下地
C-100x50x20x2. 3

耐火要求範囲 母屋新設

改修後 保育園側梁伏図 S=1/250

内田構造建築工房 一級建築士 内田 浩司

三重県知事登録 第1 -1 5 2 2 号

〒514-1107 三重県 津市 久居中町818 Tel 059(256)2303/Fax 059(254)0085

年月日

工事名称 (仮称) 一志こども園整備に伴う津市高野保育園
及び津市立高岡幼稚園改修その他工事

図面番号

S-016

縮 尺

1/250

図 面 名

既存鉄骨梁伏図・鉄骨リスト (2)

(原図A2)